

山梨県中巨摩郡玉穂町

町内遺跡詳細分布調査報告書

1995

玉穂町教育委員会

山梨県中巨摩郡玉穂町

町内遺跡詳細分布調査報告書

1995

玉穂町教育委員会

## 序

玉穂町は昭和30（1955）年に稻積村と三町村が合併し玉穂村となったものが昭和60（1985）年の町政施行により玉穂町となつたものであります。玉穂町は旧来その豊かな水源と肥沃な土地柄を生かした農業を主要な産業としてきた町ですが、山梨県庁所在地である甲府市に隣接していることから近年はその「ベッドタウン」としての宅地化が急速に進行し、人口も昭和59（1984）年時の4522人と比較し、約2倍である9000人までに伸びているところであります。また、町内には昭和55（1980）年に国立山梨医科大学が開校するなど文教地区としての発展にも目覚ましいものがあります。

このような玉穂町の歴史については中世・近世以降の諸文献によるところのものは比較的明瞭でしたが、原始・古代へと遡りますと不明瞭な点が多く、周辺の大河川（笛吹川・釜無川ほか）の氾濫原ゆえに遺跡等の存在はないのではないかと考えられている程であります。そのような歴史観の存在する中で実施された今回の町内遺跡詳細分布調査では、数こそ多くはないものの各種の遺跡が発見され、その中には約1800年前の弥生時代後期の遺跡まで含まれておきましたことは町の歴史環境を考える上で誠に貴重な成果となったものと思われます。

今後は今回の調査成果を町の発展のための開発と文化財保護の精神とを両立させるべく十二分に活用していくことが必要であろうと切に思うところであります。最後となりますが、今回の町内遺跡詳細分布調査にご理解とご協力を賜りました町民の皆様および調査関係者の皆様に厚く御礼申し上げ、序とかえさせていただきます。

玉穂町教育委員会

教育長 林 正巳

## 例　　言

1. 本報告書は、山梨県中巨摩郡玉穂町の町内全域を対象とした遺跡詳細分布調査の報告書である。
2. 分布調査は平成6年度の国庫補助金を受け実施されたものである。
3. 分布調査は平成6（1994）年12月1日から平成7年（1995）年1月31日までの期間内に実施し、一部の試掘調査については平成7年2月4～5日に実施した。
4. 本報告書の執筆・編集は保坂康夫と森原明廣が行ない、執筆分担は目次中に示した。
5. 分布調査と併せ実施した試掘調査時のデータについては、理化学的分析を外部委託し、その成果については付編として掲載した。  
なお、付編Ⅰ「玉穂町内試掘調査のプラント・オバール」は鈴木茂氏（株式会社パレオ・ラボ）、付編Ⅱ「玉穂町試掘調査資料のC14年代測定」は鈴木茂氏（株式会社パレオ・ラボ）に各々執筆をお願いし玉稿を賜った。記して感謝申し上げる。
6. 調査（分布調査・試掘調査）で出土した遺物、採集した土壤サンプル、作成した記録（写真・図面等）は全て玉穂町教育委員会にて保管している。
7. 調査から報告書の作成に至るまで多くの方々のご協力やご助言を賜った。記して感謝申し上げる。（敬称略・順不同）  
萩原三雄・畠 大介（帝京大学山梨文化財研究所）、池谷喜久馬（池谷建材）、椎名慎太郎・十菱駿武（山梨学院大学）、山梨県教育委員会学術文化課、山梨学院大学考古学研究会、山梨県考古学協会、山梨県埋蔵文化財センター

8. 調査組織は下記のとおりである。

教育長　林　正巳  
教育次長　飯沼　亘  
事務局　玉穂町教育委員会

# 目 次

序 文	
例 言	
目 次	
第 1 章	調査に至る経緯と経過 ..... (保坂) ..... 1
第 2 章	歴史的・地理的環境 ..... (保坂) ..... 3
第 3 章	分布調査
1)	分布調査の目的と問題点 ..... (森原) ..... 6
2)	分布調査の方法 ..... (森原) ..... 7
3)	分布調査の結果 ..... (森原) ..... 7
第 4 章	試掘調査
1)	試掘調査の目的 ..... (保坂) ..... 15
2)	試掘調査の方法 ..... (保坂) ..... 15
3)	試掘調査地点の選定 ..... (保坂) ..... 15
4)	試掘調査の結果 ..... (保坂) ..... 16
5)	試掘結果の解釈と今後の課題 ..... (保坂) ..... 18
第 5 章	総合的なまとめ ..... (森原) ..... 23
付編 I	「玉穂町内試掘調査のプラント・オパール」 ..... (鈴木) ..... 25
付編 II	「玉穂町内試掘調査資料のC 14年代測定」 ..... (鈴木) ..... 32

## 挿図目次

第 1 図	釜無川扇状地の微地形と遺跡の分布 ..... 5
第 2 図	遺物実測図 ..... 11
第 3 図	玉穂町内遺跡分布および試掘坑配置図 ..... 13・14
第 4 図	試掘坑土層断面図 ..... 21
第 5 図	町内地盤調査図 ..... 22

## 挿表目次

第 1 表	玉穂町内遺跡一覧表 ..... 10
-------	--------------------

## 写真図版目次

写真図版 1	遺跡遠景 ..... 33
写真図版 2	出土遺物 ..... 34
写真図版 3	試掘調査 ..... 35

## 第1章 調査に至る経緯と経過

近年の開発の広域化、大規模化のなかで、さまざまな文化財が破壊の危機に瀕している。特に埋蔵文化財については、地中にあり開発行為と直接関わりながら、その所在が不明のまま破壊が進行していることが懸念される。

文化財保護法では、第1章から第4章の条文の中で、学術的等で重要とされるすべての物を文化財と規定し、これを国民共有の財産とする。そして、政府公共機関と一般国民はともに協力し合ってこれを保護していかねばならないとしている。埋蔵文化財については特に1章を立て、周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）で土木工事等開発行為を行なう場合は文化庁長官に届け出ないし通知し、それに対し行政機関は保護のための指導を行なうこととしている（法第57条）。

近年、この行政機関の行なう保護指導はほとんどの場合、学術的な発掘調査の実施の指導であり、全国で年間1万件以上、山梨県内でも百数十件もの発掘調査が実施されている。行政機関、特に地域の教育委員会においては、地方自治法などの規定により、増え続ける開発行為と埋蔵文化財保護との調整および保護対策、発掘調査に対応している訳だが、埋蔵文化財保護業務は教育委員会の業務の中での比率を日々増大させつつあり、その対策に汲々としているのが現状である。

ところで、法第57条の埋蔵文化財の条文の中に、埋蔵文化財の所在や内容についての周知義務が行政機関に課せられている（法第57条の4）。開発行為を行なうにあたり、法により一般国民は埋蔵文化財の保護が求められるが、一般的には発掘調査の自らの実施という形で費用負担を求められることが多い。そこで、教育委員会は事業者に対し、開発行為の計画にあたって、埋蔵文化財の所在や内容などの情報を正確に豊富に迅速に提供することが求められることになる。近年、埋蔵文化財保護の理解が浸透すればするほど、教育委員会に課せられた周知義務は、一般国民から求められ、重要な埋蔵文化財保護対策となってきた。

山梨県内では、この周知義務に基づき、遺跡の分布調査が実施してきた。昭和40年代から50年代前半にかけて県教育委員会が全県下の分布調査を実施し、その成果は文化庁発行の遺跡分布図に結実している（文化庁 1982『全国遺跡地図－山梨県－』）。また、各自治体は、文化庁の補助金を得たり、また市町村史等の事業と絡めて独自の予算で分布調査を実施し、埋蔵文化財保護の基本資料としている。

玉穂町では、前述の文化庁の遺跡地図では、遺跡のマーキングが見られない。1986年に県教育委員会が調査し発刊した中世城館跡の分布調査報告書の中で3ヵ所の遺跡がプロットされているにすぎない（山梨県教育委員会 1986『山梨県の中世城館跡』）。しかし、玉穂町は古代に成立したとされる水田の条里型地割の分布地として古くから知られており、条里型地割の分布地には弥生時代以降の遺跡分布も見られる状況もある。遺跡のマーキングがないのは遺跡がないのではなく、認識されていない可能性が高いと思われた。

そこで、当教育委員会では、平成6年度の国庫補助金を得て町内の分布調査を実施することとした。玉穂町全域を調査地域とし、12のブロックに分けて、下記の方々に協力を仰いで踏査等の調査を実施した。

大島正之、岡野秀典、金井京子、小島利史、兒玉好美、高須秀樹、田中大輔、  
西名博江、平塚洋一、広瀬和広、保坂康夫、三沢達也、森原明廣、皆川 洋  
(敬称略)

試掘調査では、山梨学院大学考古学研究会の下記の方々に協力いただいた。

北嶋宏一、小屋優子、天川和子、小宮山博彦、小池 令、和田弘行、篠原朋亮、  
荻原 純、堀内博雄 (敬称略)

また、試掘地点については、下記の方々のご協力を得て調査を実施することができた。  
深く御礼申し上げる次第である。

山本 章、清水助春、乙黒正孝、土屋靖廣、薬袋善三、鷹野国次 (敬称略)

## 第2章 歴史的・地理的環境

玉穂町は釜無川扇状地の端部に位置し、釜無川ばかりでなく、笛吹川や荒川などの河川の氾濫などの影響を受ける地域である。町内の地形は、こうした河川の營力により形成されたものである。遺跡は、河川の形成した自然堤防や氾濫原に立地することになる。町内の地形についての詳しい記述は、第5章の3に譲り、ここでは、釜無川扇状地に立地する遺跡の状況について概述する。

釜無川扇状地には、扇頂部に竜王町、扇中央部に昭和町、扇端部に玉穂町、甲府市、田富町がある。この内、田富町以外で遺跡分布調査がなされており、その成果に基づく遺跡分布状況を第1図に示した（竜王町教育委員会 1988『竜王町の遺跡』、昭和町教育委員会 1986『昭和町の埋蔵文化財分布調査報告』『義清神社内遺跡』所収、甲府市 1989『甲府市史』史料編第1巻）。

最も古い遺跡は、甲府市上石田三丁目の上石田遺跡、甲府市高畠一丁目の宮北遺跡、甲府市徳行五丁目の村西遺跡で、縄文時代の遺跡である。上石田遺跡では発掘調査もなされ、中期の住居跡も検出されており、集落の立地が確実に見られる。荒川を挟んで対岸の宝二丁目や幸町でも縄文時代の遺跡が確認されており、この周辺は荒川の存在にもかかわらず、安定した土地であったことが伺える。この地域より上流の荒川流域でも、縄文時代以降の遺跡が豊富に確認されており、荒川は古来より流路が安定し、また、氾濫しても砂や礫などをほとんど供給しない河川だったと思われる。

弥生時代の遺跡は、以外にも、今回発見された玉穂町の三宮司遺跡のみである。また古墳時代の遺跡は、甲府市宮原町の桜林A遺跡と玉穂町竹乃花遺跡の2ヶ所である。

奈良・平安時代の遺跡は玉穂町上三條などに10遺跡、甲府市大里町を中心とした地域に5遺跡、甲府市徳行、富竹、上石田、高畠の地域に12遺跡と地域的に集まって分布する。これらの地域には、先述した縄文・弥生・古墳時代の遺跡が分布する地域もあり、古くから安定した地域であることが伺える。また、『山梨県古代官衙・寺院跡詳細分布調査報告書』（山梨県教育委員会 1995）によると、古代に成立した可能性のある寺院として釜無川扇状地では以下の4つの寺院が記載されている。行基の開山とされる甲府市古上条町の雪窓院、新羅三郎義光が平安時代末の大治年間に創立したとされる甲府市宮原町の興藏寺、藤原期の聖観音立像のある玉穂町下河東の永源寺、引仁から藤原期の薬師如来座像のある玉穂町下三條の歓盛院である。これらの寺院は奈良・平安時代の遺跡分布地域である玉穂町上三條から甲府市大里町にいたる地域の中に位置したり隣接している。さらに、古代の圃場整備跡である条里型地割は、釜無川扇状地では田富町から玉穂町にかけての地域のみに分布し、上三條や下河東の古代遺跡集中地域の中に位置している（須藤賢・谷岡武雄 1951『甲斐条里の諸問題』『地理学評論』第24巻4号）。このように、釜無川扇状地では、扇状地端部に古代の遺跡群が位置し、玉穂町内の地域が遺跡、古代寺院、条里型地割と最も古代文化の要素が多い地域とすることができます。

中世になると、扇状地全体に遺跡が分布するようになるが、これらにも疎密の差があり、竜王町篠原、竜王町玉川、昭和町西条・清水新居、昭和町押越、昭和町飯喰・上河東、甲府市大里町、玉穂町上三條・下河東・井之口などを中心とする地域に集中的に分布する。さらに、『山梨県の中世城館跡』に記載された館跡の分布をみると、遺跡の集中地域内に立地していることがわかる。古代の遺跡の分布地域だった釜無川扇状地端部を出て、遺跡は扇頂部にも分布するにいたった。こうした、遺跡分布は館跡を中心とした遺跡分布とも見て取れ、莊園との関わりも視座に入れて理解する必要があろう。



第1図 釜無川扇状地の微地形と遺跡の分布

(地形図は高木勇夫『条里地域の自然環境』古今書院 P 33  
 「第11図甲府盆地釜無川扇状地の微地形」を使用。一点鎖線は玉穂町域。)

## 第3章 分布調査

### 1. 分布調査の目的および問題点

玉穂町は釜無川扇状地の端部に位置し、古くから釜無川あるいは笛吹川・荒川等の河川氾濫の影響を強く受けた地域の一つである。町域は南北約4km、東西約3kmに渡り、その面積はおよそ8kmを測る。町域の標高は北端部で約255m前後、南端部で約250m前後を測る。その比高差は約5mとなり、全体的に北から南へ緩く傾斜する平坦な地形を象徴している。なお、町内には笛吹川の支流である遠藤川・空穂川・山伏川・神明川・渋川・鎌田川といった小河川が各々南流し、町の南端部を南北方向へ流れる笛吹川の本流へと注いでいる。現在の町における集落分布はこれらの小河川によって仕切られるように存在する南北方向の微高地に展開し、主要幹線となる道路も南北方向に延びている。また、近年来の宅地化に代表される開発行為もこの微高地に沿うように進んでおり、これらの開発から埋蔵文化財を保護することが今回の分布調査の主目的の一つとなっている。

このような地勢を見せる玉穂町域では河川氾濫の多発性などから原始・古代まで遡れるような遺跡の分布はこれまでに全く把握されておらず、昭和56(1981)年の文化庁『全国遺跡地図(山梨県)』においても「遺跡の空白地」となっている。この点にはこの地域(甲府盆地底部の平坦部全域)についての一種の先入観(「盆地底部に遺跡はない」という考え方)が大きく作用しているものとも考えられる。しかしながら近年はこれまでに遺跡分布が希薄であると考えられてきた甲府盆地西部域(八田村・白根町・甲西町・櫛形町など)における大規模開発に伴う発掘調査で地表下数mの地点から多くの遺跡が検出されるに至り、甲府盆地底部における遺跡分布を見直す動きが見られるという研究動向がある。よって、今回の玉穂町での分布調査にもこれまでとは異なる視座(「遺跡があっても不思議ではない」という考え方)での遺跡把握が望まれ、また各調査員の努力があった。また、この点も今回の調査の主たる目的であるとも言えよう。ただし、今回の分布調査においても何等問題点がなかつた訳ではない。いくつかの点では各調査員に苦慮が見られた。ここではそのいくつかを列記し、各々の対応策や



分布調査の風景

所感を述べておきたい。

- ①前述のような地勢を見せる玉穂町域では遺跡分布の可能性が高いのは微高地上あるいはその周辺である。しかし、これらの地点はすでに集落が営まれ部分的には市街地化も進んでおり、遺物等の表面採集あるいは純粋な地表面の観察自体が困難であること。
- ②玉穂町域は旧来より農業により振興してきた町であり、町域の大半は水田化しているため、遺物の表面採集や純粋な表面観察が困難であること。
- ③現在では野菜等の畑となっている地点についても、水田からの改作に伴う客土が多く見られ、同じく遺物の表面採集や純粋な表面観察が困難であること。

上記3点の問題点は、

- ①については集落地や市街地についてもなるべく細かく地表面を探すような観察(民家の菜園や空き地などの観察)に努めることや神社仏閣の境内など比較的占くから土地が守られている地点を重要視することなどによる解決策を模索し実行した。
- ②・③については水田地内の観察はもちろん水田の脇地や畦畔などの観察も極力行なうことや周辺土壤との比較観察により客土か否かの判断を的確に行なうことなどの方策によって問題の解決を図った。これらの点については、今回の分布調査の正確性に大きく影響する要因となるものであるが、今回併行して実施した試掘調査によって補足はなされているものと考えられる。ただし、遺跡分布把握の正確性については、今後に行なわれるであろう確認調査(微高地上や遺跡近接地での確認)などにより補正していくことが最良の方策であると考えておきたい。

## 2. 分布調査の方法

今回の分布調査は玉穂町の全域を対象として実施した。その方法は町全域を12箇所の調査区に分割し、各区に担当調査員を配置し、細かい踏査を実施したものである。調査は各区ごとに3日程度を要したが、調査・作業の工程は下記のとおりである。

【現地調査】周辺地形の観察→地表面の観察→遺物等の表面採集→現況の写真撮影ほかの記録

【室内調査】採集遺物の水洗→遺跡立地や地番の確認→写真等の記録整理→遺跡カードの作成  
なお、調査員の構成については第1章中に触れたとおりであり、参照されたい。

## 3. 分布調査の結果

今回の分布調査で確認できた遺跡数は38箇所におよび、すでに存在が確認されている中世城館跡を含めると41箇所の遺跡が玉穂町内にて確認されたこととなる。確認された遺跡の所属年代は弥生時代後期から中世にまで渡り、特に中世から近世の遺跡が多い。以下、確認された各遺跡についての時期ごとの概要を示す。

### 【弥生時代後期】

三宮司遺跡(No.16)において、遺物分布が確認されている。採集された遺物は弥生時

代後期末葉の壺形土器（第2図-1・写真図版2上段-1）である。折り返し口縁壺の口縁部破片であり、外面の刷毛目も良好に残存している。

#### 【古墳時代】

竹乃花遺跡（No.29）において、遺物分布が確認されている。採集された遺物は古墳時代の壺形土器（写真図版2中段右-77・78）壺形土器（写真図版2中段右-79）である。いずれも小片のため詳細な器形・時期は不明であるが、壺形土器については古墳時代後期の所産が考えられる。

#### 【平安時代】

若宮第2遺跡（No.7）、今川第3遺跡（No.10）、三宮司遺跡（No.16）、中新居遺跡（No.17）、天神木遺跡（No.18）、二又第1遺跡（No.23）、二又第2遺跡（No.24）、壺丁田遺跡（No.36）、田中氏屋敷跡（No.37）の9遺跡において、遺物分布が確認されている。採集された遺物は壺形土器および皿形土器が大半である。いずれも小片のため詳細な時期判別は不可能であるが、図示できた今川第3遺跡出土例（第2図-2・写真図版2上段-2）および天神木遺跡出土例（第2図-2・写真図版2上段-2）はいずれも9世紀前半～中葉代の壺形土器の口縁部破片であろうと考えられる。

#### 【中世】

中通第1遺跡（No.1）、中通第2遺跡（No.2）、中通第3遺跡（No.3）、村西遺跡（No.4）、中通第4遺跡（No.5）、若宮第1遺跡（No.6）、若宮第2遺跡（No.7）、中通第5遺跡（No.8）、相之田遺跡（No.9）、今川第2遺跡（No.12）、今川第4遺跡（No.13）、今川第6遺跡（No.15）、中新居遺跡（No.17）、平田宮遺跡（No.19）、上窪遺跡（No.20）、中橋遺跡（No.21）、二又第1遺跡（No.23）、二又第2遺跡（No.24）、下河原第1遺跡（No.25）、下河原第2遺跡（No.26）、神明遺跡（No.27）、北河原遺跡（No.28）、扇田遺跡（No.30）、青六遺跡（No.31）、西反甫第1遺跡（No.32）、西反甫第2遺跡（No.33）、下河東屋敷跡（No.34）、向河原遺跡（No.35）、田中氏屋敷跡（No.37）、川久保遺跡（No.38）、熊野第1遺跡（No.39）、熊野第2遺跡（No.40）、御朱印屋敷（No.41）の34遺跡にて遺物分布および堀・土塁などの遺構が確認されている。採集された遺物は中世の土師質土器（かわらけ）や内耳土器などの土器片が大半である。いずれも小片であり、図示できたのは天神木遺跡出土例（第2図-4・写真図版2上段-4）および中新居遺跡出土例（第2図-5・写真図版2上段-5）のみである。詳細な時期判別は不可能であり、一部には近世以降のかわらけと判別困難なものも含まれている可能性がある。

#### 【近世】

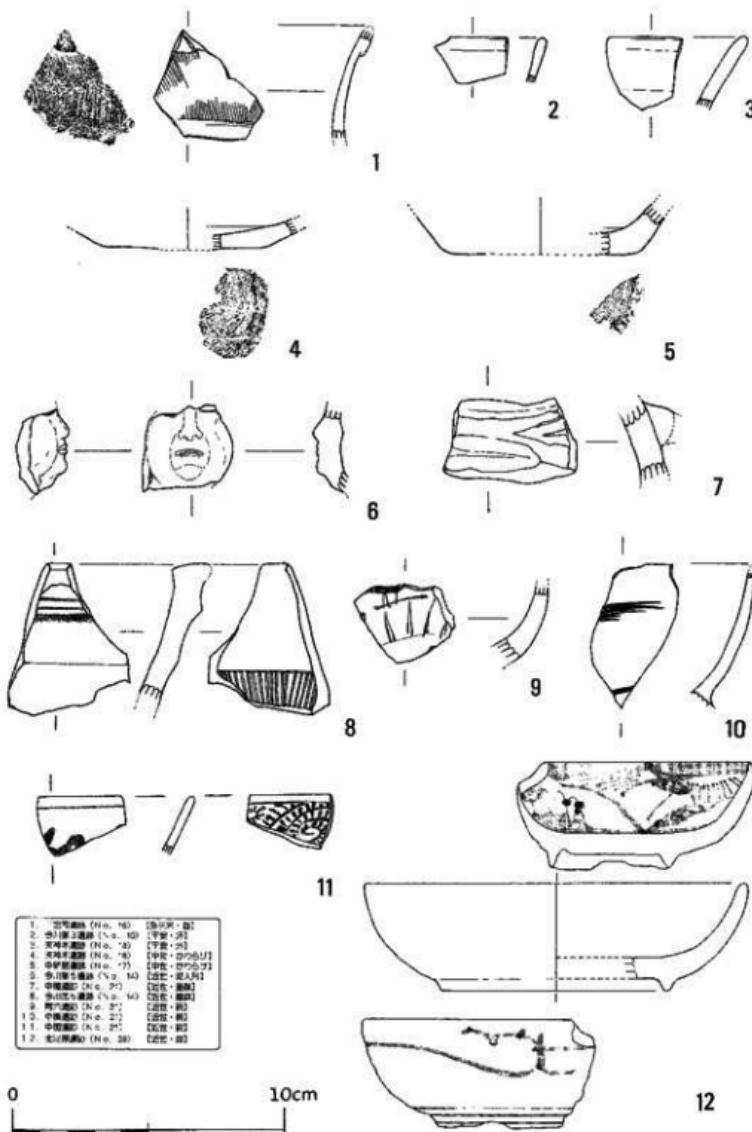
中通第1遺跡（No.1）、中通第2遺跡（No.2）、中通第3遺跡（No.3）、村西遺跡（No.4）、中通第4遺跡（No.5）、若宮第1遺跡（No.6）、中通第5遺跡（No.8）、今川第1遺跡（No.11）、今川第4遺跡（No.13）、今川第5遺跡（No.14）、今川第6遺跡（No.15）、上窪遺跡（No.20）、中橋遺跡（No.21）、川久保遺跡（No.22）、二又第1遺跡（No.23）、二

又第2遺跡(No.24)、下河原第1遺跡(No.25)、下河原第2遺跡(No.26)、神明遺跡(No.27)、北河原遺跡(No.28)、扇田遺跡(No.30)、青六遺跡(No.31)の~~26~~遺跡にて遺物分布が確認されている。採集された遺物は陶磁器類が大半を占め、特に染付磁器が多いが土器や土製品なども含まれる。図示できたのは土製品のうち今川第5遺跡出土の泥人形(第2図-6・写真図版2上段-6)、土器のうち中楯遺跡出土の釜形土器(第2図-7・写真図版2上段-7)、陶器のうち今川第5遺跡出土の擂鉢(第2図-8・写真図版2上段-8)、染付磁器のうち青六遺跡出土の碗形磁器(第2図-9・写真図版2上段-9)、中楯遺跡出土の碗形磁器2点(第2図-10・写真図版2上段-10および第2図-11・写真図版2上段-11)、北河原遺跡出土の皿形磁器(第2図-12・写真図版2上段-12)である。

以上のように今回の分布調査において確認された遺跡を時期別に概観した。総合的なまとめは第5章に譲るが、玉穂町域における遺跡分布はこれまで考えられてきたような「空白地帯」とはならず、弥生時代後期から中近世にまでおよぶ分布が見られる結果となった。このことは玉穂町のみならず甲府盆地ひいては山梨県の考古学・歴史研究の上で非常に重要な成果となるものであり、今後の本格的な発掘調査や考古学・歴史研究に期待されるところは大きいものと考えられる。

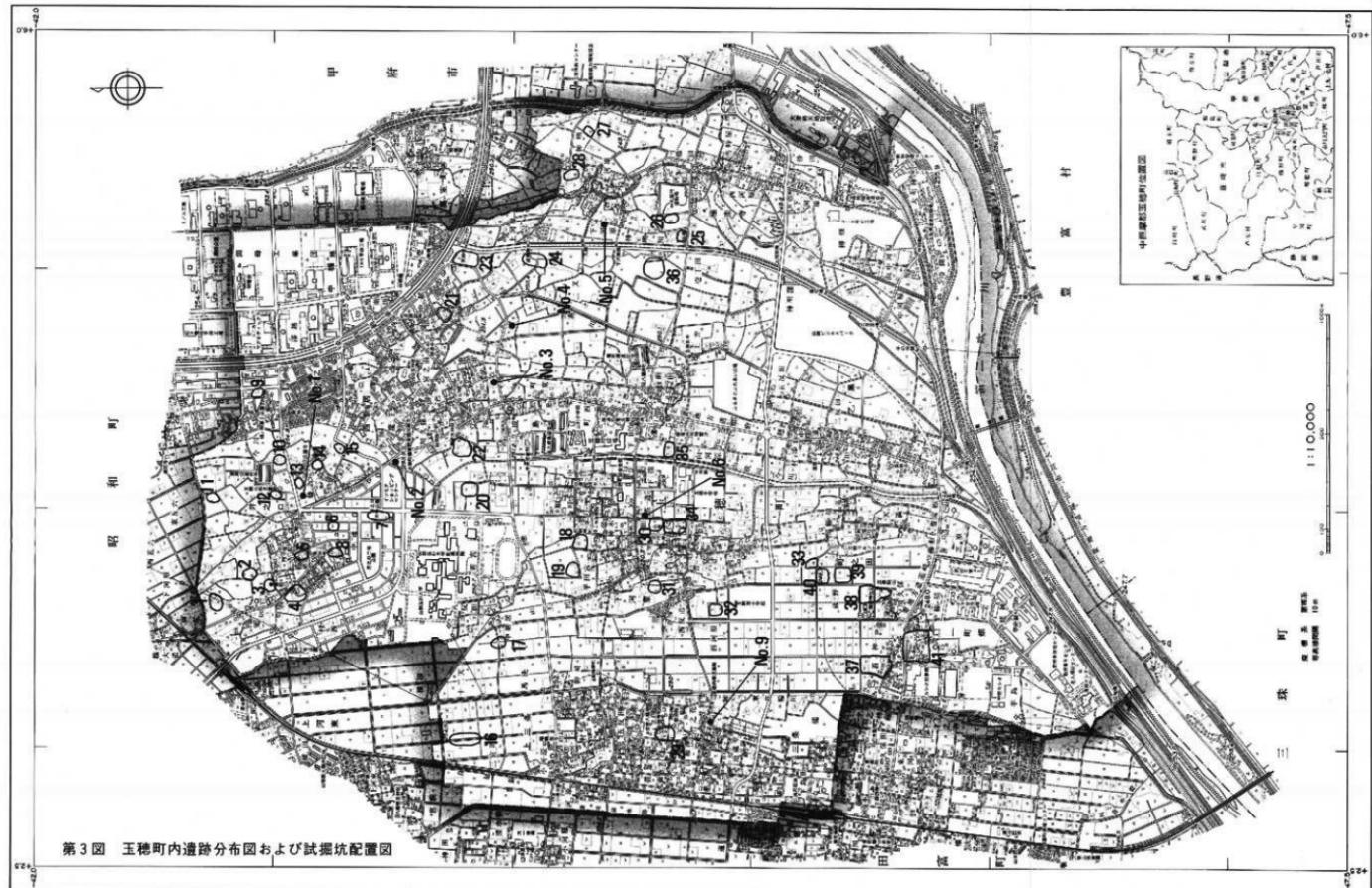
No	遺跡名	種別	所在地	時期	備考
1	中通第1遺跡	散布地	井之口字中通	中世～近世	かわらけ・土器(鏡類)・磁器・陶器
2	中通第2遺跡	散布地	井之口中通	中世～近世	かわらけ・土器(鏡類)・磁器・陶器
3	中通第3遺跡	散布地	井之口字中通	中世～近世	かわらけ・陶器
4	村西遺跡	散布地	井之口字村西	中世～近世	かわらけ・磁器
5	中通第4遺跡	散布地	井之口字中通	中世～近世	かわらけ・土器(鏡類)
6	若宮第1遺跡	散布地	若宮字若宮	中世～近世	かわらけ・土器(鏡類)・陶器
7	若宮第2遺跡	散布地	若宮字若宮	平安・中世	土師器・かわらけ・土器(鏡類)
8	中通第5遺跡	散布地	井之口字中通	中世～近世	かわらけ・土器(鏡類)
9	相之田遺跡	散布地	中橋字相之田	中世	かわらけ・土器(鏡類)
10	今川第3遺跡	散布地	井之口字今川	平安	土師器
11	今川第1遺跡	散布地	井之口字今川	近世	陶器
12	今川第2遺跡	散布地	井之口字今川	中世	かわらけ
13	今川第4遺跡	散布地	井之口字今川	中世～近世	かわらけ・土器(鏡類)
14	今川第5遺跡	散布地	井之口字今川	近世	泥人形・陶器
15	今川第6遺跡	散布地	井之口字今川	中世～近世	かわらけ
16	三宮司遺跡	散布地	上三条字三宮司	弥生末・平安	土器(弥生末)・土師器・かわらけ
17	中新居遺跡	散布地	下河東字中新居	平安・中世	土師器・かわらけ
18	天神木遺跡	散布地	下河東字天神木	平安・中世～近世	土師器・かわらけ・磁器
19	平田宮遺跡	散布地	下河東字平田宮	中世	かわらけ・土器(鏡類)
20	上窪遺跡	散布地	下河東字上窪	中世～近世	かわらけ・土器(鏡類)・磁器・陶器
21	中橋遺跡	散布地	中橋字中橋	中世～近世	内耳土器・土器(鏡類)・磁器
22	川久保遺跡	散布地	成島字川久保	近世	かわらけ・土器(鏡類)
23	二又第1遺跡	散布地	成島字二又	平安・中世～近世	土師器・かわらけ・土器(鏡類)
24	二又第2遺跡	散布地	成島字二又	平安・中世～近世	土師器・土器(鏡類)・陶器・磁器
25	下河原第1遺跡	散布地	成島字下河原	中世～近世	かわらけ・陶器
26	下河原第2遺跡	散布地	成島字下河原	中世～近世	かわらけ・陶器
27	神明遺跡	散布地	極楽寺字神明	中世～近世	陶器・磁器
28	北河原遺跡	散布地	極楽寺字北河原	中世～近世	かわらけ・土器(鏡類)
29	竹之花遺跡	散布地	下三条字竹之花	古墳	土師器
30	畠田遺跡	散布地	下河東字畠田	中世～近世	土器(鏡類)・磁器
31	青六遺跡	散布地	下河東字青六	中世～近世	土器(鏡類)・磁器
32	西反甫第1遺跡	散布地	下河東字西反甫	中世	土器(鏡類)
33	西反甫第2遺跡	散布地	下河東字西反甫	中世	かわらけ・土器(鏡類)
34	下河東屋敷	城館跡	下河東字屋敷	中世	掘切・『山梨県の中世城館跡』
35	向河原遺跡	散布地	下河東字向河原	中世	土器(鏡類)
36	岩丁田遺跡	散布地	成島字岩丁田	平安	土師器
37	田中氏屋敷跡	城館跡	一町畠字西ノ畠	平安・中世	土師器・土器・漆『山梨県の中世城館跡』
38	川久保遺跡	散布地	一町畠字川久保	中世	かわらけ
39	熊野第1遺跡	散布地	町之田熊野	中世	かわらけ
40	熊野第2遺跡	散布地	町之田字熊野	中世	かわらけ
41	御朱印屋敷	城館跡	一町畠字西ノ神	中世	土器・漆・『山梨県の中世城館跡』

第1表 玉穂町内遺跡地名表



第2図 異物実測図





## 第4章 試掘調査

### 1. 試掘調査の目的

玉穂町は、釜無川扇状地の端部に位置し、河川によって作られた地形の上に現在の生活面がある。釜無川や笛吹川といった巨大な河川が甲府盆地を取り囲む山地から雨水を集めて集合してくる地点であるので、古来より河川の挙動で地形環境が決定されていたであろうことは想像にかたくない。そういう地点においては通常、水田耕作を開始する弥生時代以降の遺跡の立地が予想される。また、条里型地割の存在が指摘されており、弥生時代から古代にさかのばる水田址の存在も十分考えられる地域である。

しかし、集水域にあるため土砂の堆積は相当な速度と厚さで堆積していることが予想され、弥生時代や古代の水田址や集落があったにしても、地下深くに埋没している可能がある。したがって、仮に表面採集による分布調査によって遺跡が確認されなかつたとしても、遺跡が存在しないことにはならなくなる。また、遺物が見つかったにしても、遺物包含層の存在を確認しないかぎり遺跡の存在を確認したことにはならないかもしれない。

そこで、実際に地下を掘削する試掘調査を実施し、遺構、遺物や水田址の存否の確認を行なった。試掘調査は、①遺構・遺物の確認、②水田土壤の確認、③水田土壤の年代推定の3点を目的とした。平成7年2月4日と2月5日の2日間で実施した。

### 2. 調査の方法

調査は、次項で述べるように、地形をみて水田や遺跡の立地しそうな地点7ヶ所について試掘調査を実施した。試掘は重機（コンマ4.5のバックホー）により、2m四方ほどの平面の試掘坑を湧水があるまで掘り下げる。最も深いのは2mで浅いものは1mである。

掘り下げた試掘坑の土層断面を観察し、堆積物の粒度や腐植の有無、色調等の特徴から分層し、層序の境界線のレベルの計測、スケッチと写真による記録を行なった。また、粘土質の土層や腐植の多い土層がある場合、その土層の最上部の土壤のサンプリングを実施した。

サンプリングは3ヶ所の試掘坑で実施した。サンプル数は17個である。土層断面の中央部で上述のポイントに35mmフィルムのプラスチックケースを押し込み、写真撮影の後に抜き取った。この土壤サンプルはケースのまま、分析依頼した。この土壤でプラントオバール分析を実施したが、その結果については、付編のとおりである。

また、植物遺体の多量にある土層については、植物遺体を土ごとサンプリングした。サンプリングを実施した試掘坑は2ヶ所で、サンプル数は3サンプルである。これについて、炭素14年代測定分析を実施した。その結果については、付編のとおりである。

### 3. 試掘調査地点の選定

玉穂町の微地形については、高木勇氏（高木 1989 「条里地域の自然環境」古今書院）

の微地形図を用いて検討した。このなかで高木氏は山間の盆地における扇状地の微地形を分類している。特に釜無川扇状地に論述し、その微地形について北半部と南半部とに2分できるとしている。北半部では傾斜が比較的あり、旧河道が網の目のように見られ（網状流跡）その間に流路堆積によって形成された旧中州が発達していて本当の意味での扇状地である。しかし、南半部では釜無川や荒川、笛吹川の溢流堆積によって形成された自然堤防が発達し、その背後には氾濫盆地である低地が広がり、扇状地というより氾濫原であるとした。

提示された微地形図を見ると（第1図）、竜王町竜王を頂点とし、南東方向へ旧河道が網の目状に無数に見られ、その端部は甲府市大里辺りに達する。一方、竜王町玉川辺りを頂点として、微高地の方向が南方向に急変している。旧河道は非常に少ないが、やはり南北方向に方向を変えている。その変換ラインは、竜王町玉川を頂点として、甲府市大津町辺りに達する。この地域が、高木氏の指摘する所の上位氾濫原である。甲西町東南湖や西南湖の地域の堰止氾濫による氾濫原である下位氾濫原に対し、溢流氾濫による氾濫原である上位氾濫原とされた。

玉穂町は、この上位氾濫原に位置している。この地形区分をたよりに人の居住を考えると、微高地である自然堤防上に居住地が形成され、その背後の低地である氾濫盆地には水田が作られ生産域を形成している可能性がある。試掘坑の設定にあたっては、両者に配置するよう配慮する必要がある。また、この現在の地形が遺跡の存在が予想される千年や二千年前の地形と同一の者であるという保障はなにもないので、遺跡の立地を検証しながら、この地形がどれくらい前に形成されたものかも検討する必要がある。

今回設定した試掘坑は、自然堤防上が5ヶ所（No. 2、3、5、6、9）、氾濫盆地が2ヶ所（No. 1、4）である。

#### 4. 調査結果

各試掘坑の土層断面図を示した（第4図）。いずれの試掘坑でも砂礫層に至り湧水して、それ以深への掘り下げを断念しているが、その深度が2m内外のもの（No. 1、4、6）と、1m内外のもの（No. 2、3、5、9）と2種類に分けることができる。

まず、2m内外のものから見てみると、井之口地内のNo. 1では、現在の耕作土層と旧耕作土層が約60cm（I・II層）、灰色の砂層が20cm（III層）、シルト層が約20cm（IV層）で25cmの厚さの砂層（V層）にいたる。その下位に腐植や植物遺体を含む黒色のシルト層ないし粘土質シルト層が約40cm（VI・VII層）ほど見られ、20cmほどの砂層があつて、砂礫層となり湧水している。

成島の新川の西側近くに設定したNo. 4では、20cmほどの土壌層（I層）の下位に10cmほどの砂層が入る。その下部に土壤質シルト層があり、その底部には水田の床土と思われる10cmほどの黄色のシルト層が入る。その下位にはシルト層が約40cmの厚さで3枚見ら

れる（II～V層）。最上位の茶灰色シルト層底部には鉄分の沈着したパイプの発達がみられ、地下水位が鉄分パイプのレベルまで上昇していた時期のあることを推定させる。VI層の青灰色の砂層は還元状態もので、ラミナの発達がみられる。黒色の腐植や植物遺体を含むシルト層ないし粘土質シルト層（VII～X層）は約60cmで、直接砂礫層を覆う。

下河東の永源寺北側に設定したNo.6では、土壤層が2層で約60cm（I・II層）、20cmほどの砂層（III層）があり、6cmと比較的薄いシルト層（IV層）にいたる。V層のラミナの発達した砂層は約30cmと比較的厚い。腐植や植物遺体を含む黒色のシルト層ないし粘土質シルト層が約70cm（VII～X層）で地表下220cmで砂礫層にいたる。

このように、2m内外で砂礫層にいたる土層断面は、土壤層、砂層、シルト層、ラミナの発達した砂層、腐植や植物遺体を含む黒色のシルト層ないし粘土質シルト層、砂層を上部に伴う砂礫層の基本的に6つの部分から成る層序が見られる。

これらの層の一部で年代測定および、水田層検出を目的とするプラントオバール分析を実施した。プラントオバール分析では、No.1ではIV・V・VI・VII層の上面とVII層下底面の5サンプルを分析し、IV層上面とVI層上面で水田面を確認している。No.4では、III・V・VII・VIII・X層上面の5サンプルを分析し、最上位のIII層上面でのみ水田面を確認している。No.6では、III・IV・VI・VII・VIII・IX層上面とX層中位7サンプルを分析し、やはり最上位のIII層上面でのみ水田面を確認している。

すなわち、砂層とシルト層の互層に中位から上位でいずれの試掘坑でも水田面を確認している。この年代だが、No.1でIV層下部で近世の土器が、No.4ではIII層下部でやはり近世の土器が出土しており、いずれも近世以降の水田面と考えられる

No.1のみ黒色の腐植や植物遺体を含むシルト層ないし粘土質シルト層の上位で水田面を確認している。このVI層の中位から採取した植物遺体で炭素14年代測定を実施し、1000±100B.P.の年代を得ており、10世紀から11世紀、概ね平安時代中葉以降のものであることが推定できる。

黒色の腐植や植物遺体を含むシルト層ないし粘土質シルト層では他の試掘坑でも炭素14年代測定を実施しており、No.4ではX層中位で採取した植物遺体が $1520 \pm 150$ B.P.、No.6ではIX層中位の植物遺体が $1410 \pm 80$ B.P.の年代で、概ね5世紀頃、古墳時代中期頃には黒色の腐植や植物遺体を含むシルト層ないし粘土質シルト層が堆積はじめたと/orすることができる。

古墳時代から平安時代にかけて堆積した黒色の腐植や植物遺体を含むシルト層ないし粘土質シルト層では最上位で水田面が確認できたが、プラントオバールはかなりの量が見られ、周辺での耕作の可能性があり、この上層の形成期を通じて玉穂町内で水田が形成されていたとみてよいと思われる。古代の水田区画とされる条里型地割は、No.6を設定した下河東地区に見られるが、ここでは古代での水田面は確認されず、条里型地割は見られない井之口地区に設定したNo.1の試掘坑に水田面が見られた。下河東地区的条里型地割の

成立時期について、中世以降の成立も含め検討の必要がある。

次に、1m内外のものを見てみると、西新居地区の川久保に設定したNo.2では、30cmほど現在の土壌層、10cmほど砂層、20cmほど黒灰色のシルト質土層があり、10cmほど黄色の砂層を経て黄褐色の砂礫層に至る。黄褐色の砂礫層は30cmで砂層となり、砂層はやはり30cmほどで再び砂礫層になって湧水する。成島地区に設定したNo.3では、30cmほど現在の土壌層、30cmほど砂層、20cmほど黒灰色のシルト質土層、10cmほど砂層で15cmほど砂礫層になり、20cmほど黄褐色の砂層を経て砂礫層に至る。極楽寺地区のNo.5では、20cmほど現在の土壌層の下に40cmほど黄褐色の砂質シルト層があり、20cmほど暗灰色の砂層と5cmほど黄褐色砂質シルト層を経て、10cmほど黒灰色のシルト質土層がある。その下位に20cmほど砂層を経て砂礫層に至る。下三條地区の才の神に設定したNo.9では、40cmほど土壌層の直下に黒灰色のシルト層がある。30cmほど黒灰色のシルト層の下位には、50cmにわたり黄褐色の粗砂層があり、地表下120cmで砂礫層となり湧水する。礫の大きさは大きいもので人頭大のものがあり、すべての試掘坑の中でもっとも大きい礫が見られた。

このように、砂礫層まで1m内外のものは、土壌層、砂層、黒灰色シルト層、砂層、砂礫層の層序をもつ。これらについては、プラントオパール分析や年代測定を行なわなかつたし、年代の決め手になるような遺物も出土しなかった。

## 5. 調査結果の解釈と今後の課題

今回の調査では近世の土器を確認したものの、住居址など確実な遺所在の証拠をつかむことができなかった。しかし、古代末以降の水田面が確認され、少なくとも古墳時代中期以降、稻作が継続されていた可能性が高いことが把握できた。分布調査で見つかった遺物はその時代の集落の所在を示す可能性が高い。弥生時代後期の土器が最古の遺物であるが、砂礫層が弥生時代中期の洪水期のものである可能性があり、それ以降の人の居住は確実となる。ここでは、この点を含めて試掘結果を検討し、今後の課題を提示したい。

### ①現在の地形と土層断面との関係

高木氏の地形分類にしたがって試掘坑を設定した訳であるが、概ね土層断面と相関関係あるとすることができる。自然堤防とされた地点の土層断面は、1m内外で砂礫層に至るもので、氾濫盆地とされた地点ではそれより深い2m内外のレベルに砂礫層があり、その上位に腐植に富んだシルト層が厚く見られた。

今回の試掘結果の他に、1985年に出された『山梨の地盤調査図』(山梨県建築士会編集委員会ほか)によると、玉穂町内では、山梨医科大学、玉穂町庁舎、甲府南消防署玉穂出張所、玉穂町立ゴミ処理施設、県立動物管理センター、県立畜産試験場の6ヵ所、18本の土層断面が示されている(第5図)。山梨医科大学では、7本の土層断面図が示され砂礫層までの深度は2.5、2.8、2.4、2.3、2.1、3.5、6.6mである。砂礫層直上に厚さ50cmの

腐植土が見られるものが1ヶ所ある。概ね、2m強で砂礫層に至る土層断面と言える。この地域の大半が高木氏の分類では氾濫盆地であり、一部に旧河道もあることから、砂礫層まで3m以上の土層断面は旧河道にかかる位置かもしれない。

玉穂町庁舎では2本の土層断面が示され、砂礫層までの深度が4.8、2.9mである。この地点は、自然堤防上であるが、西側に隣接して現在の河道があり低地と接する地点もある。そこで比較的深い深度で砂礫層が見られるのだろう。

甲府南消防署玉穂出張所は玉穂町庁舎の東に隣接し、まったく自然堤防上だが、1本示された土層断面では0.9mで砂礫層に至る。玉穂町立ゴミ処理施設、県立動物管理センター、県立畜産試験場の3ヶ所は笛吹川に隣接してあり、上記の地点とは違った様相である。玉穂町立ゴミ処理施設では、4.4、4.4、5.8m。県立動物管理センターでは、4.0、4.7m。県立畜産試験場では、3.4、5.1、3.6mと4m内外で砂礫層に至る。笛吹川の影響で堆積物が多いのかもしれない。なお、第5図では上記の内、3本の土層断面図を省略した。

以上のように、他の資料を加味しても高木氏の示した地形区分と土層断面との対応関係が見られる。ただし、試掘坑No.6のみが自然堤防の中央部なのにもかかわらず深い位置で砂礫層がでている。山梨県による土地分類図（山梨県 1984『土地分類基本調査－甲府－』）によると、この付近に旧河道が推定されており、いく筋かの自然堤防と低地とに区分できるのかもしれない。No.6は低地部分に位置する可能性もある。そうすると、自然堤防上では1m内外で砂礫層に至り、氾濫盆地では2m内外で砂礫層に至るということになる。

## ②砂礫層の年代観

炭素14年代測定では砂礫層直上の年代が古墳時代中期であるが、外山秀一氏によると、山梨県を含む中部から近畿、四国までの地域の沖積平野に位置する遺跡の堆積層から、弥生時代前期末から中期初頭、弥生時代後期から古墳時代前期に洪水等の不安定な状況が見られるとしている（外山秀一 1994「プラントオバールからみた稻作農耕の開始と土地条件の変化」『第四紀研究』V o. 1.33 No. 5）。特に弥生時代前期末から中期初頭の洪水は大規模であったらしい。『山梨の地盤調査図』の上層断面図によると、砂礫層はいずれの断面でも数mにもおよび、非常に激しい氾濫であったことが推定できる。まさに、現在の地形面を形成した出来事であったとすることができる。すると、この砂礫層もこの事件の折りのものとすることが順当であろう。そうすると、腐植に富んだシルト層は、弥生時代後期以降に形成された可能性が十分考えられることになる。

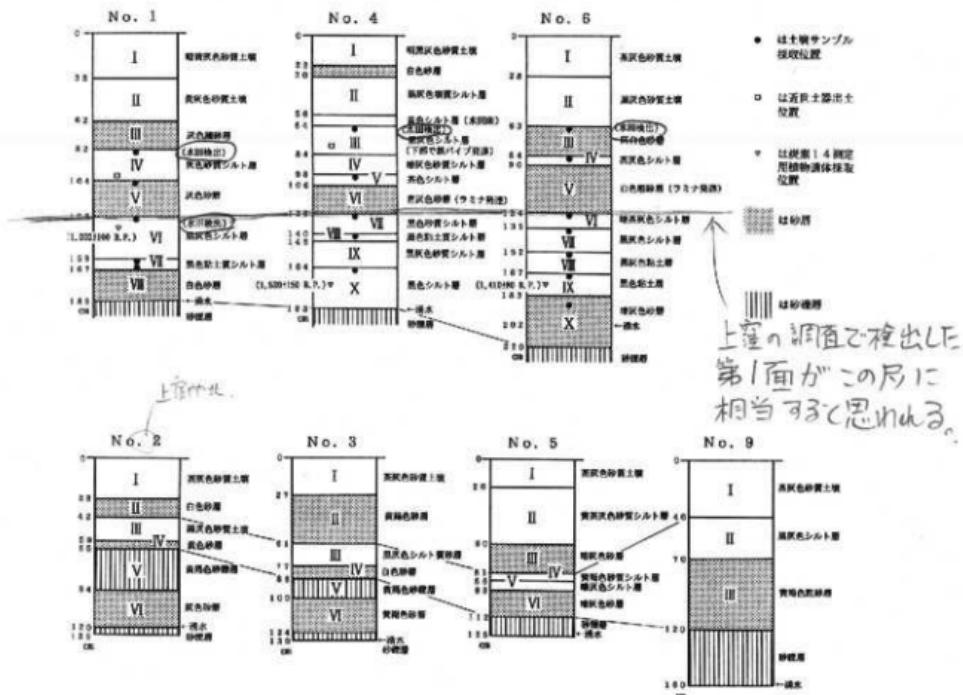
## ③今後の課題

遺跡立地を見ると、上三條、下三條の地域に玉穂町内で最も古い遺跡である弥生時代後期から平安時代の遺跡が集中する。しかし、3遺跡中2遺跡が氾濫盆地に位置しており、遺物の由来が気に掛かる。この地域には試掘坑を設定しておらず、今後この地域に意識的に調査が実施されることが期待される。いずれにせよ、第2章で述べたように釜無川扇状

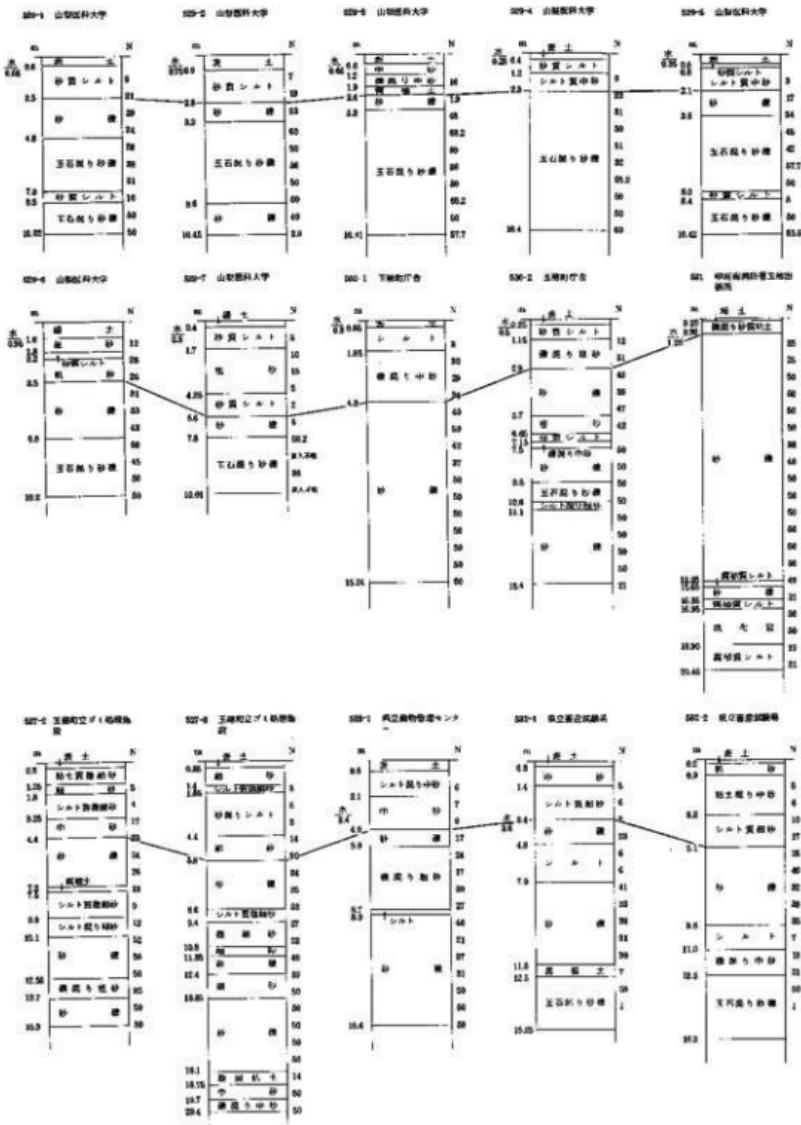
地全体を見渡しても、この地域に遺跡が集中し古代文化の要素が多いことは、決して偶然の出来事ではないであろう。おそらく、試掘坑No. 9のような黒灰色シルト層がこの地域に分布していて、この中で遺構面が確認されることが予想される。

中世の遺跡はさらに広がり、下河東や上成島、井之口、中橋、極楽寺等に見られる。しかし、乙黒等の笛吹川に近い地域にはほとんど見られない。また、最も安定していると思われた成島地域には遺跡がほとんど確認できなかった。これらの地域には、黒灰色土壌の上に砂層が被っており、これが中世以前の遺跡を覆っていることも考えられる。外山氏によると不安定な時期は古代末と15・16世紀にもあり、この砂層がこれにあたる可能性がある。砂疊層まで2m内外の断面でも、炭素14年代測定で11世紀以降に砂層の堆積があり、この考えを支持する。あるいは、この段階の砂層の堆積が成島地域で特に厚かったり、集中したのもかもしれない。それで、この地域の中世以前の遺跡は砂層直下に埋没している可能性がある。これも、今後の調査に期待したい。

△ 1  
△ 2  
△ 3  
△ 4  
△ 5  
△ 6  
△ 7  
△ 8  
△ 9  
△ 10  
△ 11  
△ 12  
△ 13  
△ 14  
△ 15  
△ 16  
△ 17  
△ 18  
△ 19  
△ 20  
△ 21  
△ 22  
△ 23  
△ 24  
△ 25  
△ 26  
△ 27  
△ 28  
△ 29  
△ 30  
△ 31  
△ 32  
△ 33  
△ 34  
△ 35  
△ 36  
△ 37  
△ 38  
△ 39  
△ 40  
△ 41  
△ 42  
△ 43  
△ 44  
△ 45  
△ 46  
△ 47  
△ 48  
△ 49  
△ 50  
△ 51  
△ 52  
△ 53  
△ 54  
△ 55  
△ 56  
△ 57  
△ 58  
△ 59  
△ 60  
△ 61  
△ 62  
△ 63  
△ 64  
△ 65  
△ 66  
△ 67  
△ 68  
△ 69  
△ 70  
△ 71  
△ 72  
△ 73  
△ 74  
△ 75  
△ 76  
△ 77  
△ 78  
△ 79  
△ 80  
△ 81  
△ 82  
△ 83  
△ 84  
△ 85  
△ 86  
△ 87  
△ 88  
△ 89  
△ 90  
△ 91  
△ 92  
△ 93  
△ 94  
△ 95  
△ 96  
△ 97  
△ 98  
△ 99  
△ 100  
△ 101  
△ 102  
△ 103  
△ 104  
△ 105  
△ 106  
△ 107  
△ 108  
△ 109  
△ 110  
△ 111  
△ 112  
△ 113  
△ 114  
△ 115  
△ 116  
△ 117  
△ 118  
△ 119  
△ 120  
△ 121  
△ 122  
△ 123  
△ 124  
△ 125  
△ 126  
△ 127  
△ 128  
△ 129  
△ 130  
△ 131  
△ 132  
△ 133  
△ 134  
△ 135  
△ 136  
△ 137  
△ 138  
△ 139  
△ 140  
△ 141  
△ 142  
△ 143  
△ 144  
△ 145  
△ 146  
△ 147  
△ 148  
△ 149  
△ 150  
△ 151  
△ 152  
△ 153  
△ 154  
△ 155  
△ 156  
△ 157  
△ 158  
△ 159  
△ 160  
△ 161  
△ 162  
△ 163  
△ 164  
△ 165  
△ 166  
△ 167  
△ 168  
△ 169  
△ 170  
△ 171  
△ 172  
△ 173  
△ 174  
△ 175  
△ 176  
△ 177  
△ 178  
△ 179  
△ 180  
△ 181  
△ 182  
△ 183  
△ 184  
△ 185  
△ 186  
△ 187  
△ 188  
△ 189  
△ 190  
△ 191  
△ 192  
△ 193  
△ 194  
△ 195  
△ 196  
△ 197  
△ 198  
△ 199  
△ 200  
△ 201  
△ 202  
△ 203  
△ 204  
△ 205  
△ 206  
△ 207  
△ 208  
△ 209  
△ 210  
△ 211  
△ 212  
△ 213  
△ 214  
△ 215  
△ 216  
△ 217  
△ 218  
△ 219  
△ 220  
△ 221  
△ 222  
△ 223  
△ 224  
△ 225  
△ 226  
△ 227  
△ 228  
△ 229  
△ 230  
△ 231  
△ 232  
△ 233  
△ 234  
△ 235  
△ 236  
△ 237  
△ 238  
△ 239  
△ 240  
△ 241  
△ 242  
△ 243  
△ 244  
△ 245  
△ 246  
△ 247  
△ 248  
△ 249  
△ 250  
△ 251  
△ 252  
△ 253  
△ 254  
△ 255  
△ 256  
△ 257  
△ 258  
△ 259  
△ 260  
△ 261  
△ 262  
△ 263  
△ 264  
△ 265  
△ 266  
△ 267  
△ 268  
△ 269  
△ 270  
△ 271  
△ 272  
△ 273  
△ 274  
△ 275  
△ 276  
△ 277  
△ 278  
△ 279  
△ 280  
△ 281  
△ 282  
△ 283  
△ 284  
△ 285  
△ 286  
△ 287  
△ 288  
△ 289  
△ 290  
△ 291  
△ 292  
△ 293  
△ 294  
△ 295  
△ 296  
△ 297  
△ 298  
△ 299  
△ 300  
△ 301  
△ 302  
△ 303  
△ 304  
△ 305  
△ 306  
△ 307  
△ 308  
△ 309  
△ 310  
△ 311  
△ 312  
△ 313  
△ 314  
△ 315  
△ 316  
△ 317  
△ 318  
△ 319  
△ 320  
△ 321  
△ 322  
△ 323  
△ 324  
△ 325  
△ 326  
△ 327  
△ 328  
△ 329  
△ 330  
△ 331  
△ 332  
△ 333  
△ 334  
△ 335  
△ 336  
△ 337  
△ 338  
△ 339  
△ 340  
△ 341  
△ 342  
△ 343  
△ 344  
△ 345  
△ 346  
△ 347  
△ 348  
△ 349  
△ 350  
△ 351  
△ 352  
△ 353  
△ 354  
△ 355  
△ 356  
△ 357  
△ 358  
△ 359  
△ 360  
△ 361  
△ 362  
△ 363  
△ 364  
△ 365  
△ 366  
△ 367  
△ 368  
△ 369  
△ 370  
△ 371  
△ 372  
△ 373  
△ 374  
△ 375  
△ 376  
△ 377  
△ 378  
△ 379  
△ 380  
△ 381  
△ 382  
△ 383  
△ 384  
△ 385  
△ 386  
△ 387  
△ 388  
△ 389  
△ 390  
△ 391  
△ 392  
△ 393  
△ 394  
△ 395  
△ 396  
△ 397  
△ 398  
△ 399  
△ 400  
△ 401  
△ 402  
△ 403  
△ 404  
△ 405  
△ 406  
△ 407  
△ 408  
△ 409  
△ 410  
△ 411  
△ 412  
△ 413  
△ 414  
△ 415  
△ 416  
△ 417  
△ 418  
△ 419  
△ 420  
△ 421  
△ 422  
△ 423  
△ 424  
△ 425  
△ 426  
△ 427  
△ 428  
△ 429  
△ 430  
△ 431  
△ 432  
△ 433  
△ 434  
△ 435  
△ 436  
△ 437  
△ 438  
△ 439  
△ 440  
△ 441  
△ 442  
△ 443  
△ 444  
△ 445  
△ 446  
△ 447  
△ 448  
△ 449  
△ 450  
△ 451  
△ 452  
△ 453  
△ 454  
△ 455  
△ 456  
△ 457  
△ 458  
△ 459  
△ 460  
△ 461  
△ 462  
△ 463  
△ 464  
△ 465  
△ 466  
△ 467  
△ 468  
△ 469  
△ 470  
△ 471  
△ 472  
△ 473  
△ 474  
△ 475  
△ 476  
△ 477  
△ 478  
△ 479  
△ 480  
△ 481  
△ 482  
△ 483  
△ 484  
△ 485  
△ 486  
△ 487  
△ 488  
△ 489  
△ 490  
△ 491  
△ 492  
△ 493  
△ 494  
△ 495  
△ 496  
△ 497  
△ 498  
△ 499  
△ 500  
△ 501  
△ 502  
△ 503  
△ 504  
△ 505  
△ 506  
△ 507  
△ 508  
△ 509  
△ 510  
△ 511  
△ 512  
△ 513  
△ 514  
△ 515  
△ 516  
△ 517  
△ 518  
△ 519  
△ 520  
△ 521  
△ 522  
△ 523  
△ 524  
△ 525  
△ 526  
△ 527  
△ 528  
△ 529  
△ 530  
△ 531  
△ 532  
△ 533  
△ 534  
△ 535  
△ 536  
△ 537  
△ 538  
△ 539  
△ 540  
△ 541  
△ 542  
△ 543  
△ 544  
△ 545  
△ 546  
△ 547  
△ 548  
△ 549  
△ 550  
△ 551  
△ 552  
△ 553  
△ 554  
△ 555  
△ 556  
△ 557  
△ 558  
△ 559  
△ 560  
△ 561  
△ 562  
△ 563  
△ 564  
△ 565  
△ 566  
△ 567  
△ 568  
△ 569  
△ 570  
△ 571  
△ 572  
△ 573  
△ 574  
△ 575  
△ 576  
△ 577  
△ 578  
△ 579  
△ 580  
△ 581  
△ 582  
△ 583  
△ 584  
△ 585  
△ 586  
△ 587  
△ 588  
△ 589  
△ 590  
△ 591  
△ 592  
△ 593  
△ 594  
△ 595  
△ 596  
△ 597  
△ 598  
△ 599  
△ 600  
△ 601  
△ 602  
△ 603  
△ 604  
△ 605  
△ 606  
△ 607  
△ 608  
△ 609  
△ 610  
△ 611  
△ 612  
△ 613  
△ 614  
△ 615  
△ 616  
△ 617  
△ 618  
△ 619  
△ 620  
△ 621  
△ 622  
△ 623  
△ 624  
△ 625  
△ 626  
△ 627  
△ 628  
△ 629  
△ 630  
△ 631  
△ 632  
△ 633  
△ 634  
△ 635  
△ 636  
△ 637  
△ 638  
△ 639  
△ 640  
△ 641  
△ 642  
△ 643  
△ 644  
△ 645  
△ 646  
△ 647  
△ 648  
△ 649  
△ 650  
△ 651  
△ 652  
△ 653  
△ 654  
△ 655  
△ 656  
△ 657  
△ 658  
△ 659  
△ 660  
△ 661  
△ 662  
△ 663  
△ 664  
△ 665  
△ 666  
△ 667  
△ 668  
△ 669  
△ 670  
△ 671  
△ 672  
△ 673  
△ 674  
△ 675  
△ 676  
△ 677  
△ 678  
△ 679  
△ 680  
△ 681  
△ 682  
△ 683  
△ 684  
△ 685  
△ 686  
△ 687  
△ 688  
△ 689  
△ 690  
△ 691  
△ 692  
△ 693  
△ 694  
△ 695  
△ 696  
△ 697  
△ 698  
△ 699  
△ 700  
△ 701  
△ 702  
△ 703  
△ 704  
△ 705  
△ 706  
△ 707  
△ 708  
△ 709  
△ 710  
△ 711  
△ 712  
△ 713  
△ 714  
△ 715  
△ 716  
△ 717  
△ 718  
△ 719  
△ 720  
△ 721  
△ 722  
△ 723  
△ 724  
△ 725  
△ 726  
△ 727  
△ 728  
△ 729  
△ 730  
△ 731  
△ 732  
△ 733  
△ 734  
△ 735  
△ 736  
△ 737  
△ 738  
△ 739  
△ 740  
△ 741  
△ 742  
△ 743  
△ 744  
△ 745  
△ 746  
△ 747  
△ 748  
△ 749  
△ 750  
△ 751  
△ 752  
△ 753  
△ 754  
△ 755  
△ 756  
△ 757  
△ 758  
△ 759  
△ 760  
△ 761  
△ 762  
△ 763  
△ 764  
△ 765  
△ 766  
△ 767  
△ 768  
△ 769  
△ 770  
△ 771  
△ 772  
△ 773  
△ 774  
△ 775  
△ 776  
△ 777  
△ 778  
△ 779  
△ 780  
△ 781  
△ 782  
△ 783  
△ 784  
△ 785  
△ 786  
△ 787  
△ 788  
△ 789  
△ 790  
△ 791  
△ 792  
△ 793  
△ 794  
△ 795  
△ 796  
△ 797  
△ 798  
△ 799  
△ 800  
△ 801  
△ 802  
△ 803  
△ 804  
△ 805  
△ 806  
△ 807  
△ 808  
△ 809  
△ 810  
△ 811  
△ 812  
△ 813  
△ 814  
△ 815  
△ 816  
△ 817  
△ 818  
△ 819  
△ 820  
△ 821  
△ 822  
△ 823  
△ 824  
△ 825  
△ 826  
△ 827  
△ 828  
△ 829  
△ 830  
△ 831  
△ 832  
△ 833  
△ 834  
△ 835  
△ 836  
△ 837  
△ 838  
△ 839  
△ 840  
△ 841  
△ 842  
△ 843  
△ 844  
△ 845  
△ 846  
△ 847  
△ 848  
△ 849  
△ 850  
△ 851  
△ 852  
△ 853  
△ 854  
△ 855  
△ 856  
△ 857  
△ 858  
△ 859  
△ 860  
△ 861  
△ 862  
△ 863  
△ 864  
△ 865  
△ 866  
△ 867  
△ 868  
△ 869  
△ 870  
△ 871  
△ 872  
△ 873  
△ 874  
△ 875  
△ 876  
△ 877  
△ 878  
△ 879  
△ 880  
△ 881  
△ 882  
△ 883  
△ 884  
△ 885  
△ 886  
△ 887  
△ 888  
△ 889  
△ 890  
△ 891  
△ 892  
△ 893  
△ 894  
△ 895  
△ 896  
△ 897  
△ 898  
△ 899  
△ 900  
△ 901  
△ 902  
△ 903  
△ 904  
△ 905  
△ 906  
△ 907  
△ 908  
△ 909  
△ 910  
△ 911  
△ 912  
△ 913  
△ 914  
△ 915  
△ 916  
△ 917  
△ 918  
△ 919  
△ 920  
△ 921  
△ 922  
△ 923  
△ 924  
△ 925  
△ 926  
△ 927  
△ 928  
△ 929  
△ 930  
△ 931  
△ 932  
△ 933  
△ 934  
△ 935  
△ 936  
△ 937  
△ 938  
△ 939  
△ 940  
△ 941  
△ 942  
△ 943  
△ 944  
△ 945  
△ 946  
△ 947  
△ 948  
△ 949  
△ 950  
△ 951  
△ 952  
△ 953  
△ 954  
△ 955  
△ 956  
△ 957  
△ 958  
△ 959  
△ 960  
△ 961  
△ 962  
△ 963  
△ 964  
△ 965  
△ 966  
△ 967  
△ 968  
△ 969  
△ 970  
△ 971  
△ 972  
△ 973  
△ 974  
△ 975  
△ 976  
△ 977  
△ 978  
△ 979  
△ 980  
△ 981  
△ 982  
△ 983  
△ 984  
△ 985  
△ 986  
△ 987  
△ 988  
△ 989  
△ 990  
△ 991  
△ 992  
△ 993  
△ 994  
△ 995  
△ 996  
△ 997  
△ 998  
△ 999  
△ 1000  
△ 1001  
△ 1002  
△ 1003  
△ 1004  
△ 1005  
△ 1006  
△ 1007  
△ 1008  
△ 1009  
△ 10010  
△ 10011  
△ 10012  
△ 10013  
△ 10014  
△ 10015  
△ 10016  
△ 10017  
△ 10018  
△ 10019  
△ 10020  
△ 10021  
△ 10022  
△ 10023  
△ 10024  
△ 10025  
△ 10026  
△ 10027  
△ 10028  
△ 10029  
△ 10030  
△ 10031  
△ 10032  
△ 10033  
△ 10034  
△ 10035  
△ 10036  
△ 10037  
△ 10038  
△ 10039  
△ 10040  
△ 10041  
△ 10042  
△ 10043  
△ 10044  
△ 10045  
△ 10046  
△ 10047  
△ 10048  
△ 10049  
△ 10050  
△ 10051  
△ 10052  
△ 10053  
△ 10054  
△ 10055  
△ 10056  
△ 10057  
△ 10058  
△ 10059  
△ 10060  
△ 10061  
△ 10062  
△ 10063  
△ 10064  
△ 10065  
△ 10066  
△ 10067  
△ 10068  
△ 10069  
△ 10070  
△ 10071  
△ 10072  
△ 10073  
△ 10074  
△ 10075  
△ 10076  
△ 10077  
△ 10078  
△ 10079  
△ 10080  
△ 10081  
△ 10082  
△ 10083  
△ 10084  
△ 10085  
△ 10086  
△ 10087  
△ 10088  
△ 10089  
△ 10090  
△ 10091  
△ 10092  
△ 10093  
△ 10094  
△ 10095  
△ 10096  
△ 10097  
△ 10098  
△ 10099  
△ 100100  
△ 100101  
△ 100102  
△ 100103  
△ 100104  
△ 100105  
△ 100106  
△ 100107  
△ 100108  
△ 100109  
△ 100110  
△ 100111  
△ 100112  
△ 100113  
△ 100114  
△ 100115  
△ 100116  
△ 100117  
△ 100118  
△ 100119  
△ 100120  
△ 100121  
△ 100122  
△ 100123  
△ 100124  
△ 100125  
△ 100126  
△ 100127  
△ 100128  
△ 100129  
△ 100130  
△ 100131  
△ 100132  
△ 100133  
△ 100134  
△ 100135  
△ 100136  
△ 100137  
△ 100138  
△ 100139  
△ 100140  
△ 100141  
△ 100142  
△ 100143  
△ 100144  
△ 100145  
△ 100146  
△ 100147  
△ 100148  
△ 100149  
△ 100150  
△ 100151  
△ 100152  
△ 100153  
△ 100154  
△ 100155  
△ 100156  
△ 100157  
△ 100158  
△ 100159  
△ 100160  
△ 100161  
△ 100162  
△ 100163  
△ 100164  
△ 100165  
△ 100166  
△ 100167  
△ 100168  
△ 100169  
△ 100170  
△ 100171  
△ 100172  
△ 100173  
△ 100174  
△ 100175  
△ 100176  
△ 100177  
△ 100178  
△ 100179  
△ 100180  
△ 100181  
△ 100182  
△ 100183  
△ 100184  
△ 100185  
△ 100186  
△ 100187  
△ 100188  
△ 100189  
△ 100190  
△ 100191  
△ 100192  
△ 100193  
△ 100194  
△ 100195  
△ 100196  
△ 100197  
△ 100198  
△ 100199  
△ 100200  
△ 100201  
△ 100202  
△ 100203  
△ 100204  
△ 100205  
△ 100206  
△ 100207  
△ 100208  
△ 100209  
△ 100210  
△ 100211  
△ 100212  
△ 100213  
△ 100214  
△ 100215  
△ 100216  
△ 100217  
△ 100218  
△ 100219  
△ 100220  
△ 100221  
△ 100222  
△ 100223  
△ 100224  
△ 100225  
△ 100226  
△ 100227  
△ 100228  
△ 100229  
△ 100230  
△ 100231  
△ 100232  
△ 100233  
△ 100234  
△ 100235  
△ 100236  
△ 100237  
△ 100238  
△ 100239  
△ 100240  
△ 100241  
△ 100242  
△ 100243  
△ 100244  
△ 100245  
△ 100246  
△ 100247  
△ 100248  
△ 100249  
△ 100250  
△ 100251  
△ 100252  
△ 100253  
△ 100254  
△ 100255  
△ 100256  
△ 100257  
△ 100258  
△ 100259  
△ 100260  
△ 100261  
△ 100262  
△ 100263  
△ 100264  
△ 100265  
△ 100266  
△ 100267  
△ 100268  
△ 100269  
△ 100270  
△ 100271  
△ 100272  
△ 100273  
△ 100274  
△ 100275  
△ 100276  
△ 100277  
△ 100278  
△ 100279  
△ 100280  
△ 100281  
△ 100282  
△ 100283  
△ 100284  
△ 100285  
△ 100286  
△ 100287  
△ 100288  
△ 100289  
△ 100290  
△ 100291  
△ 100292  
△ 100293  
△ 100294  
△ 100295  
△ 100296  
△ 100297  
△ 100298  
△ 100299  
△ 100300  
△ 100301  
△ 100302  
△ 100303  
△ 100304  
△ 100305  
△ 100306  
△ 100307  
△ 100308  
△ 100309  
△ 100310  
△ 100311  
△ 100312  
△ 100313  
△ 100314  
△ 100315  
△ 100316  
△ 100317  
△ 100318  
△ 100319  
△ 100320  
△ 100321  
△ 100322  
△ 100323  
△ 100324  
△ 100325  
△ 100326  
△ 100327  
△ 100328  
△ 100329  
△ 100330  
△ 100331  
△ 100332  
△ 100333  
△ 100334  
△ 100335  
△ 100336  
△ 100337  
△ 100338  
△ 100339  
△ 100340  
△ 100341  
△ 100342  
△ 100343  
△ 100344  
△ 100345  
△ 100346  
△ 100347  
△ 100348  
△ 100349  
△ 100350  
△ 100351  
△ 100352  
△ 100353  
△ 100354  
△ 100355  
△ 100356  
△ 100357  
△ 100358  
△ 100359  
△ 100360  
△ 100361  
△ 100362  
△ 100363  
△ 100364  
△ 100365  
△ 100366  
△ 100367  
△ 100368  
△ 100369  
△ 100370  
△ 100371  
△ 100372  
△ 100373  
△ 100374  
△ 100375  
△ 100376  
△ 100377  
△ 100378  
△ 100379  
△ 100380  
△ 100381  
△ 100382  
△ 100383  
△ 100384  
△ 100385  
△ 100386  
△ 100387  
△ 100388  
△ 100389  
△ 100390  
△ 100391  
△ 100392  
△ 100393  
△ 100394  
△ 100395  
△ 100396  
△ 100397  
△ 100398  
△ 100399  
△ 100400  
△ 100401  
△ 100402  
△ 100403  
△ 100404  
△ 100405  
△ 100406  
△ 100407  
△ 100408  
△ 100409  
△ 100410  
△ 100411  
△ 100412  
△ 100413  
△ 100414  
△ 100415  
△ 100416  
△ 100417  
△ 100418  
△ 100419  
△ 100420  
△ 100421  
△ 100422  
△ 100423  
△ 100424  
△ 100425  
△ 100426  
△ 100427  
△ 100428  
△ 100429  
△ 100430  
△ 100431  
△ 100432  
△ 100433  
△ 100434  
△ 100435  
△ 100436  
△ 100437  
△ 100438  
△ 100439  
△ 100440  
△ 100441  
△ 100442  
△ 100443  
△ 100444  
△ 100445  
△ 100446  
△ 100447  
△ 100448  
△ 100449  
△ 100450  
△ 100451  
△ 100452  
△ 100453  
△ 100454  
△ 100455  
△ 100456  
△ 100457  
△ 100458  
△ 100459  
△ 100460  
△ 100461  
△ 100462  
△ 100463  
△ 100464  
△ 100465  
△ 100466  
△ 100467  
△ 100468  
△ 100469  
△ 100470  
△ 100471  
△ 100472  
△ 100473  
△ 100474  
△ 100475  
△ 100476  
△ 100477  
△ 100478  
△ 100479  
△ 100480  
△ 100481  
△ 100482  
△ 100483  
△ 100484  
△ 100485  
△ 100486  
△ 100487  
△ 100488  
△ 100489  
△ 100490  
△ 100491  
△ 100492  
△ 100493  
△ 100494  
△ 100495  
△ 100496  
△ 100497  
△ 100498  
△ 100499  
△ 100500  
△ 100501  
△ 100502  
△ 100503  
△ 100504  
△ 100505  
△ 100506  
△ 100507  
△ 100508  
△ 100509  
△ 100510  
△ 100511  
△ 100512  
△ 100513  
△ 100514  
△ 100515  
△ 100516  
△ 100517  
△ 100518  
△ 100519  
△



第4図 試掘坑土層断面図



第5図 町内地盤調査図（山梨建築士会ほか1985「山梨の地盤調査図」より）

## 第5章 総合的なまとめ

### 1. 調査結果のまとめ

甲府盆地のほぼ中央部に位置する玉穂町ではその立地環境などから、従来より遺跡の存在について否定的な意見の多く見られるところであった。しかしながら、今回実施した詳細分布調査および試掘調査によって、そこには古くは弥生時代末期から平安時代におよぶような遺跡が数多く眠っていることが判明し、これまで知られていなかった中世・近世の遺跡の存在も数多く知られることとなったのである。具体的な遺跡数については、弥生時代1遺跡、古墳時代1遺跡、平安時代9遺跡、中世34遺跡、近世23遺跡であり、時代が重複する遺跡を総合すると41遺跡が町内において確認されたこととなる。これらの遺跡は町内の各地に分布しており、将来的にはさらなる追加がなされていくことが予測されるところである。

分布調査の結果は第3章、試掘調査の結果は第4章のとおりであるが、今回の調査では盆地底部における遺跡の分布や立地を考える上で実に貴重なデータを提示することとなったと思われる。

分布調査については、地表面上での遺物分布の確認作業を実施したのみであり、遺跡の性格の確認は不可能であるが、遺物の内容から見ておそらく集落跡・生産跡などの性格を持つ遺跡が大半を占めるであろうことが確認できた。また、試掘調査については土層確認や同時に実施した理化学的分析（プラントオパール分析・C14年代測定）によって、町内の土地形成や土地利用（水田等）の変遷をある程度の年代観とともに提示することができた。これらの成果については、今後実施されることになるであろう本格的な発掘調査などの機会により詳細な検討が加えられ、町の歴史がさらに明確にされていくと思われる。

また、ここ数年の玉穂町周辺を含む甲府盆地内における大規模開発は遺跡破壊の爪痕を残しながらも、甲府盆地に暮らした人々の様子をより明瞭に浮かび上がらせてきており、これらのなかには思いもよらない地域からの遺跡発見という事実も含まれている。このことはこれまで地表面の土質や現在の立地条件を鵜呑みにして遺跡の有無判別をしてきた我々への警鐘であり、今回の分布調査もその一音として捉えるべきものであろうと考えられる。

### 2. 今後の展望

今後の展望としては、分布調査の結果を十分に理解し、文化財の保護に役立てていくことが第一であることは言うまでもないが、この調査結果を機会あるごとに検証し、より正確な埋蔵文化財の把握に努めるための礎としていくことも同様に重要であると考えられる。その意味ではこの報告書が今後の玉穂町あるいは甲府盆地周辺の歴史研究のために活用され、より正確な歴史究明の基礎となることを願ってやまない。

### 3. おわりに

文末ではあるが、分布調査から報告書の刊行に至るまで多くの方々のご理解とご協力を頂戴した。すべての方々のご芳名を掲げることはできなかったが、ここで御礼申し上げる次第である。

## 付編 I

### 玉穂町内試掘調査のプラント・オパール

鈴木 茂 (バレオ・ラボ)

イネ科植物は別名珪酸植物とも呼ばれ、根より珪酸分を吸収して、葉や茎などの細胞内に沈積せざることが知られている。プラント・オパールはこうして形成された植物珪酸体が、植物が枯れるなどして土壤中に混入して土粒子（植物起源土粒子）となったものを言い、葉に形成される機動細胞珪酸体についてはイネを中心とした形態分類の研究が進んでいる（藤原・佐々木 1978など）。こうしたことから、土壤中よりイネのプラント・オパールが検出されるか否かによって稻作について検討することができる。このように、プラント・オパール分析は稻作の検証には有効である。

以下に記したプラント・オパール分析は、玉穂町内における遺跡分布有無などの基礎台帳作成の一環として行われたものであり、過去における稻作の検証を主な目的として行った。また、あわせて遺跡周辺におけるイネ科植物の変遷についても検討した。

#### 1. 試料

試料は、試掘調査地点の、1, 4, 6の3地点より採取された（図1）。以下に各試料採取層を中心に簡単な記載を示すが、層位番号などは試掘調査概報（Morihara 1995）に示されているものを使用した。

a. 地点1（5試料）：井之口899  
試料1 - IV上（IV層上部）は灰色の砂質シルト、1 - V上（V層上部）は灰色の粘土混じり砂である。1 - VI上（VI層上部）は暗灰～黒灰色砂質シルト、1 - VII上（VII層上部）および1 - VII下（VII層下部）も暗灰～黒灰色砂質シルトで、砂が多く含まれ、小さなレキが散在し、上部では材の小片もみられる。このVII層の下位は砂層（VIII層）、砾層（IX層）となっ



図1 試掘調査位置図

（試掘調査概報（Morihara 1995）より）

ている。

b. 地点4 (5試料) : 成島 1294-1

試料4 - III上 (III層上部) は灰色の砂質シルト、4 - V上 (V層上部) は灰色の砂質粘土で、根状の植物遺体が認められる。これらの間のIV層は黄白色の砂層で、V層の下位のVI層は青灰色の砂層である。4 - VII上 (VII層上部) は砂を多く含む灰色シルト、4 - VIII上 (VIII層上部) は黒灰色の砂質シルトで、細かな植物遺体が認められる。IX層は砂礫層で、4 - X (X層) は暗灰~黒灰色の砂質シルトとなっている。

c. 地点6 (7試料) : 下河東 630-1

試料6 - III上 (III層上部) は灰色のシルト質砂で、小礫が認められる。6 - IV上 (IV層上部) は灰色の砂質シルトで、下位のV層は白色の砂層である。6 - VI上 (VI層上部) は暗灰~黒灰色の砂質シルト、6 - VII上 (VII層上部) も暗灰~黒灰色の砂質シルト~シルト質砂である。6 - VIII上 (VIII層上部) は黒~黒灰色の砂質粘土で、ヒゲ根状の植物遺体が認められる。6 - IX上 (IX層上部) は黒色の砂質シルト、6 - X上 (X層上部) は灰色の中粒~細粒砂で、黄褐色の植物遺体が認められる。また、この下位層は疊層となっている。

## 2. 分析方法

秤量した試料を乾燥後再び秤量する (絶対乾燥重量測定)。別に、秤量した試料約1g(湿重)をトルビーカーにとり、約0.02gのガラスピース(直径約40μm)を加える。これに30%の過酸化水素水を20~30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後水を加え、超音波モジナイザーによる試料の分散後、沈降法により20μm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作成し、検鏡した。同定および計数は機動細胞珪酸体に由来するプラント・オバールについてガラスピースが300個に達するまで行った。

表1 試料1g当たりのプラント・オバール個数

試料番号	イネ (個/g)	ネギサ類型 (個/g)	タマゴサ類型 (個/g)	クサ類 (個/g)	カヤカガサ類 (個/g)	ヨシ草 (個/g)	シバ類 (個/g)	キビ類 (個/g)	ウシクサ類 (個/g)	ジュズダマ類 (個/g)	不明 (個/g)
1 - IV上	18,200	13,500	3,200	6,400	0	1,100	1,100	1,100	6,300	3,100	7,500
1 - V上	4,000	5,000	4,000	4,000	0	1,000	1,000	0	1,000	0	4,000
1 - VI上	18,200	12,800	3,100	3,500	0	1,200	2,300	0	2,300	0	7,800
1 - VII上	1,100	6,200	1,000	3,100	1000	2,100	0	0	0	0	2,100
1 - VIII上	2,200	1,100	3,200	3,200	0	2,200	1,100	0	2,200	0	4,400
4 - III上	33,800	13,000	4,000	0	0	4,000	2,000	2,000	0	1,900	14,000
4 - IV上	1,200	4,200	2,400	1,200	0	3,600	1,200	1,200	1,200	0	2,400
4 - V上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 - VI上	0	9,800	3,100	0	0	1,300	1,300	1,300	0	0	9,100
4 - X	1,300	1,300	1,300	0	0	3,900	1,300	0	0	0	1,300
6 - III上	12,500	1,100	0	0	0	0	0	0	0	0	9,400
6 - IV上	0	1,200	1,600	1,300	0	1,200	0	0	0	0	2,600
6 - VI上	2,200	1,100	1,100	0	0	1,100	1,100	0	1,100	0	3,200
6 - VII上	0	3,600	1,200	0	0	2,200	1,200	0	0	0	0
6 - VIII上	0	1,500	1,500	0	0	0	1,500	0	0	0	1,500
6 - IX上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6 - X上	4,400	6,600	0	6	1100	2,700	1,200	0	5,500	1100	4,400

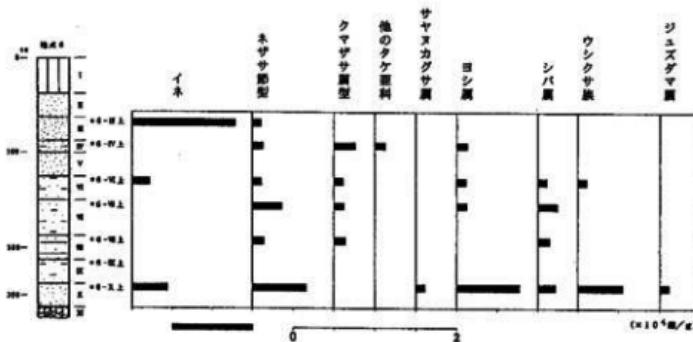
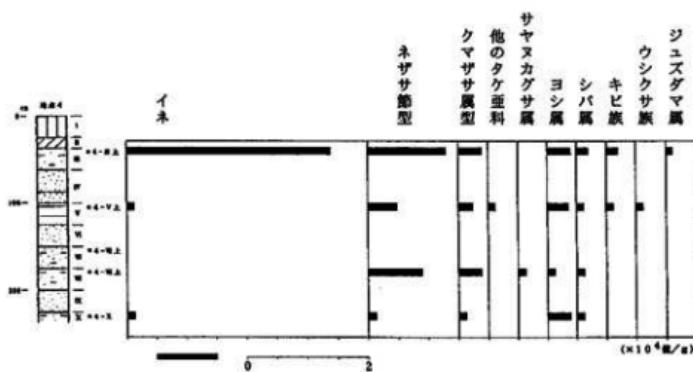
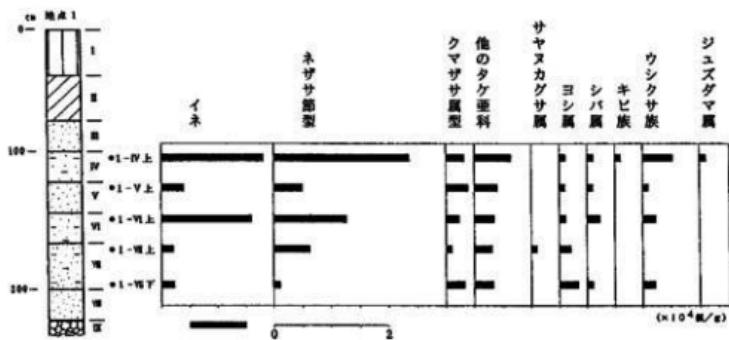


図 2 プラント・オパール分布図

### 3. 結 果

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスピース個数の比率から試料1 g当りの各プラント・オパール個数を求め(表1)、それらの分布を地点別に図2に示した。以下に示した各分類群のプラント・オパール個数は試料1 g当りの個数である。

#### a. 地点1

全試料よりイネのプラント・オパールが検出されたが、1・IV上および1・VI上の2試料ではそれぞれ約18,000個、約16,000個と多く検出されている。また、1・V上では4,000個、その他は2,000個ほどである。イネ以外では、ネザサ節型が多く検出されており、下部より上部に向かって急増傾向を示し、V層において一旦減少するが、最上部では急増し最も多く得られている。その他、クマザサ属型は3,000個前後、また、ヨシ属は上部に向かい減少する傾向が認められ、シバ属やウシクサ族なども検出されている。

#### b. 地点4

イネは4・III上、4・V上、4・Xの3試料から検出されている。このうち、最上部の4・III上では非常に多く得られており、30,000個を越えているが、他の2試料においては1,000個ほどである。イネ以外では、ネザサ節型が多く検出されており、最上部の4・III上では10,000個を越えて得られている。その他、クマザサ属型(3,000個前後)やヨシ属(4,000個ほど)、シバ属(1,500個前後)がV層試料を除く他の4試料より得られている。なお、V層試料(4・V上)からは1個体のプラント・オパールも検出されなかった。

#### c. 地点6

イネは6・III上(12,900個)、6・VI上(2,200個)、6・X上(4,400個)の3試料から検出されており、最上部の6・III上で最も多く得られている。イネ以外で、ネザサ節型は最下部(6・X上)で6,600個検出されているが、他の地点と比べ全体に少ない傾向である。ヨシ属は最下部で7,700個とヨシ属としては比較的多く検出されており、その他、クマザサ属型、シバ属、ウシクサ族などが得られている。なお、IX層試料(6・IX上)からは1個体のプラント・オパールも検出されなかった。

### 4. 稲作について

以上のように、3地点ともイネのプラント・オパールが検出されており、最上部試料で最も多く得られている。稻作の検証として、イネのプラント・オパールが試料1 g当たり5,000個以上検出された場合に、そこで稻作が行われていた可能性は高いと判断されている(古環境研究所 1989)。地点別にみてみると、地点1ではIV層およびVI層において5,000個以上のイネが検出されており、それらの標準において稻作が行われていた可能性は高いと判断される。他の3試料層準においては稻作の可能性は低いと検出個数からは判断され、他の稻作地からイネのプラント・オパールが地点1付近に供給されたことが考えられる。また、各層とも砂が多く含まれており、地下水の浸透などとともに砂粒の間隙を通って下

位層にもたらされるなど、上位層からの落込みの可能性も考えられる。

地点4ではⅢ層において稲作が行われていた可能性は高いと判断されるが、V層およびX層においてはその可能性は低いと判断されよう。また、V層およびX層においてイネが検出されたことについては上記したことが考えられるが、X層まで落ち込むことは考えにくく、X層堆積期において他の地点で稲作が行われていたことが推測される。

地点6についても地点4と同様のことが考えられ、Ⅲ層において稲作の可能性が高いと判断される。また、最下部のX層においても比較的イネが検出されており、地点6あるいは極近辺において稲作が行われていた可能性が考えられる。

以上のように、各地点とも上位層(ⅢあるいはⅣ層)においては稲作が行われていたと推測される。また、下部のX層においても、別地点である可能性が高いが、当時稲作が行われていたことが考えられよう。なお、この稲作について水田稲作であるのかどうかはプラント・オバール分析からは判断できず、発掘による水田遺構の検出や、花粉分析において検出される水田雑草類の有無などにより判断されるであろう。

## 5. 遺跡周辺のイネ科植物

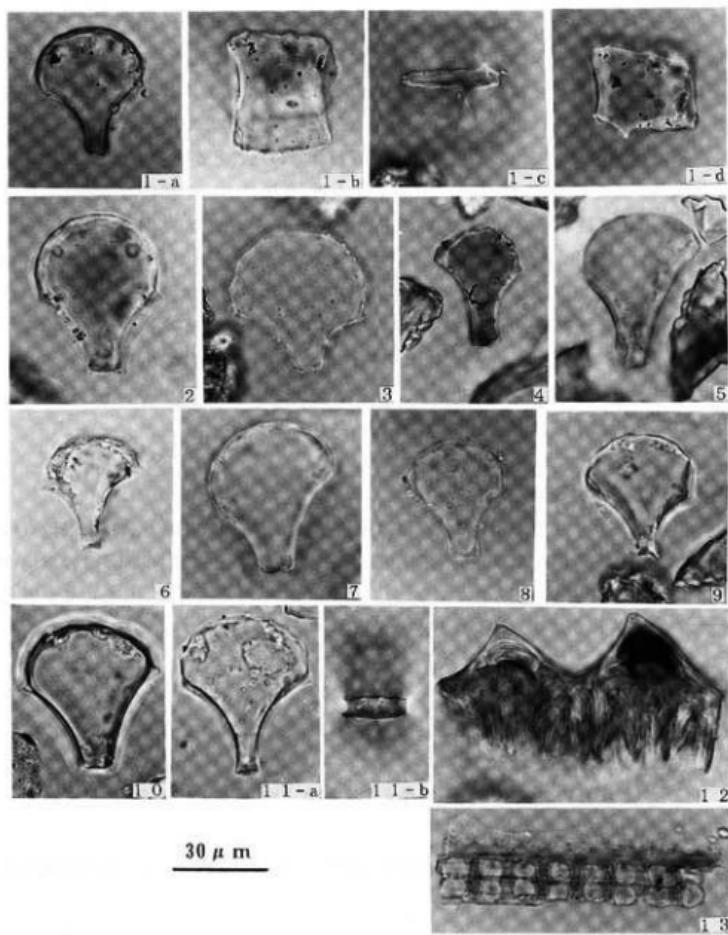
イネ以外ではネザサ節型が最も多く、ほぼ連続して検出されており、試料採取地点付近はネザサ類が生育する開けた草地的景観が広がっていたものと推測される。この草地にはシバ属やウシクサ族(スキ、チガヤなど)も生育していたであろう。また、ヨシ属もほぼ連続して検出されており、ヨシなどがみられる湿地の環境の存在も予想される。

## 6.まとめ

- 1) 分析を行った3地点とも上位層(ⅢあるいはⅣ層)において稲作が行われていた可能性は高いと判断される。
- 2) 下位層(X層)においても、別地点と考えられるが、当時稲作が行われていたことが推測される。
- 3) 試料採取地点周辺ではネザサ類などが生育する草地が広がり、ヨシなどがみられる湿地の存在も予想される。

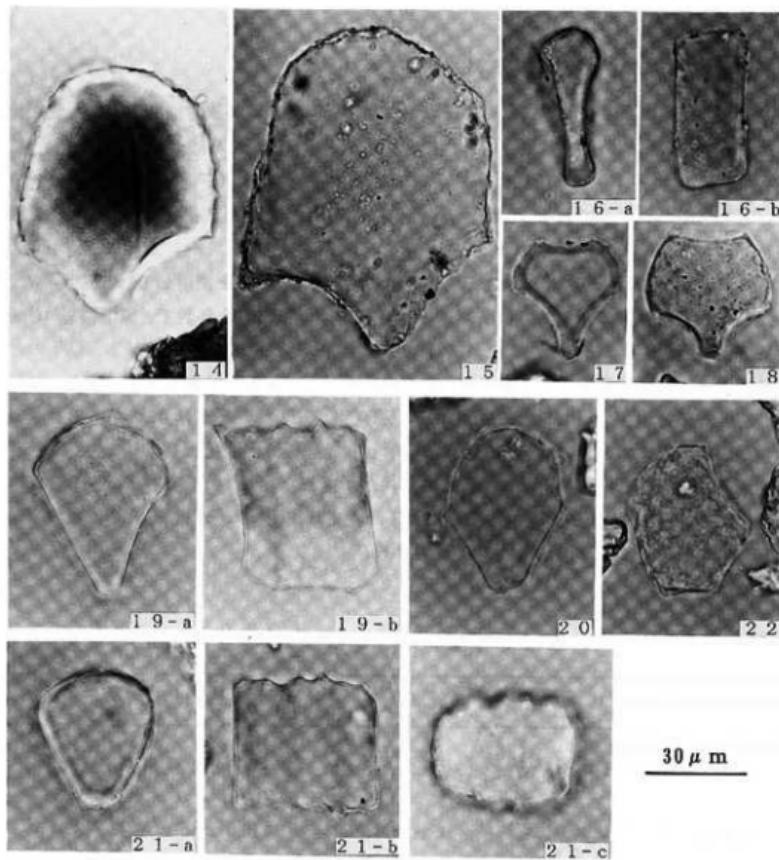
## 引用文献

- 藤原宏志・佐々木彰(1978) プラント・オバール分析法の基礎的研究(2) —イネ(Oryza)属植物における機動細胞壁酸体の形状—. 考古学と自然科学, 11, p.9-20.
- 古環境研究所(1989) プラント・オバール, 練馬区弁天池低湿地遺跡の調査, 東京都住宅局・練馬区遺跡調査会, p.133-140.



図版1 玉穂町内試掘調査のプラント・オパール

- 1 : イネ (1-a : 断面、 1-b : 側面、 1-c : 表面、 1-d : 裏面部) 6-III上  
 2 ~ 11 : イネ (2 ~ 10, 11-a : 断面、 11-b : 表面)  
 2 : 1-IV上、 3 : 1-V上、 4 : 1-VI上、 5 : 1-VII上、 6 : 1-VII下、  
 7 : 4-III上、 8 : 4-V上、 9 : 6-IV上、 10, 11 : 6-X上  
 12 : イネ穎? (一部) 1-VI上  
 13 : イネ属 (单細胞珪酸体) 1-IV上



図版2 玉穂町内試掘調査のプラント・オパール

- 14、15：ヨシ属（断面） 14：1-VI上、15：6-X上
- 16：ウシクサ族（16-a：断面、16-b：侧面） 6-X上
- 17、18：シバ属（断面） 17：1-V上、18：6-VII上
- 19：ネザ節型（19-a：断面、19-b：侧面） 1-VI上
- 20：その他のタケ亜科（マダケ属？：断面） 1-IV上
- 21：その他のタケ亜科（メダケ属？、21-a：断面、  
21-b：侧面、21-c：裏面） 1-VI上
- 22：クマザサ属型（断面） 1-VI上

## 付編Ⅱ

### 玉穂町内試料の放射性炭素年代測定

山梨県玉穂町内の試掘調査において採取された3試料について放射性炭素年代測定が行われた。各試料について、試料1（井之口899）は①号トレンチV層のシルト質粘土、試料2（成島1294-1）は④号トレンチX層の砂質粘土、試料3（下河東630-1）は⑥号トレンチIX層のシルトである。なお、年代測定は学習院大学年代測定室の木越先生にお願いした。

年代値の算出には $^{14}\text{C}$ の半減期としてLibbyの半減期5570年を使用しています。また、付記した誤差は $\beta$ 線の計数値の標準偏差 $\sigma$ にもとづいて算出した年数で、標準偏差（One sigma）に相当する年代です。また、試料の $\beta$ 線計数率と自然計数率の差が $2\sigma$ 以下のときは、 $3\sigma$ に相当する年代を下限の年代値（B.P.）として表示しております。また、試料の $\beta$ 線計数率と現在の標準炭素（MODERN STANDARD CARBON）についての計数率との差が $2\sigma$ 以下のときには、Modernと表示し、 $\pm 14\text{C} \%$ を付記しております。

測定結果は、各試料とも予想より新しい年代が示された。すなわち試料1は、予想は弥生時代であるが、測定結果は古代、試料2、3は縄文時代晚期の予想が古墳時代という結果である。なお、この原因については不明である。

表. 玉穂町内試料の $^{14}\text{C}$ 年代測定結果

試料	Gak-No	年代（1950年よりの年数）
試料1（①号トレンチV層）	Gak-18881	1,000 $\pm$ 100 (A.D. 950)
試料2（④号トレンチX層）	Gak-18882	1,520 $\pm$ 150 (A.D. 430)
試料3（⑥号トレンチIX層）	Gak-18883	1,410 $\pm$ 80 (A.D. 540)

写真図版 1



No.16 三宮司道路(上三条字三宮司)



No.17 中新居遺跡(下河東字中新居)



No.19 平田宮道路(下河東字平田宮)



No.20 上淀遺跡(下河東字上淀)



No.21 中橋遺跡(中橋字中橋)



No.22 川久保遺跡(成島字川久保)



No.23 二又第1遺跡(成島字二又)



No.24 二又第2遺跡(成島字二又)



No.25 下河原第1遺跡(成島字下河原)



No.25 下河原第2遺跡(成島字下河原)



No.30 扇田遺跡(下河東字扇田)



No.31 青六遺跡(下河東字青六)



No.35 向河原遺跡(下河東字向河原)

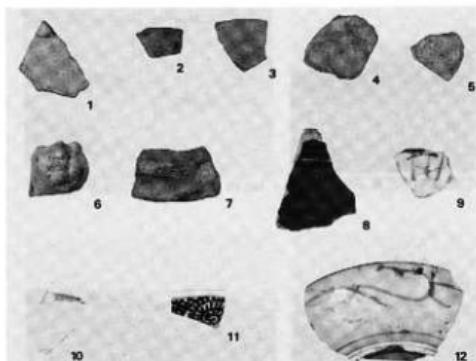


No.36 卷丁田遺跡(成島字卷丁田)



No.38 川久保遺跡(一町畠字川久保)

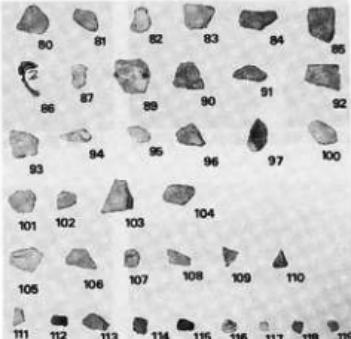
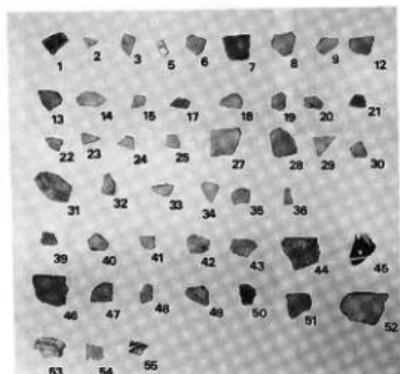
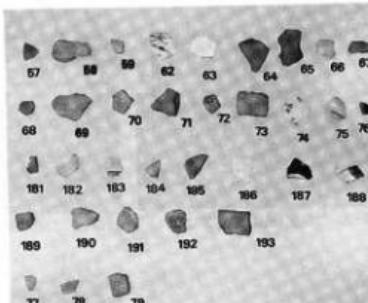
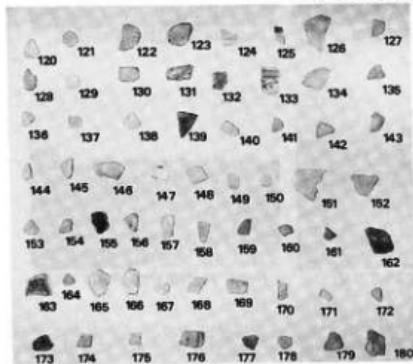
写真図版 2



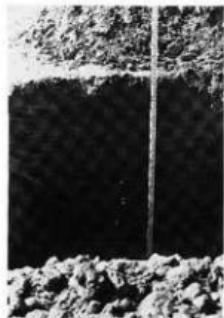
出土遺物(実測図示したもの)

1. 三合口遺跡 (No. 16)	[笠生末 - 23]
2. 佐川第3遺跡 (No. 10)	[笠生 - 24]
3. 天神木遺跡 (No. 18)	[笠生 - 25]
4. 大井木遺跡 (No. 19)	[笠生 - 26]
5. 竹原遺跡 (No. 17)	[中世 - カマツガ]
6. 田原第5遺跡 (No. 14)	[笠生 - 人見町]
7. 中城遺跡 (No. 21)	[笠生 - 宮城]
8. 仙台第5遺跡 (No. 16)	[笠世 - 鶴見]
9. 南六郷遺跡 (No. 31)	[笠世 - 鶴見]
10. 南郷遺跡 (No. 21)	[笠世 - 鶴見]
11. 中西遺跡 (No. 21)	[笠世 - 鶴見]
12. 北河原遺跡 (No. 26)	[笠世 - 鶴見]

120--126	中城1遺跡 (No. 1)	[笠世 - 22]
127--133	中城2遺跡 (No. 2)	[笠世 - 23]
134--139	中城3遺跡 (No. 3)	[笠世 - 24]
140--146	中城4遺跡 (No. 4)	[笠世 - 24]
147--153	中城5遺跡 (No. 5)	[笠世 - 24]
154--160	中城6遺跡 (No. 6)	[笠世 - 25]
161--163	中城7遺跡 (No. 7)	[笠世 - 25]
164--166	中城8遺跡 (No. 8)	[笠世 - 27]
167--170	中城9遺跡 (No. 9)	[笠世 - 28]
171--179	北河原遺跡 (No. 26)	[笠世 - 28]
180	田原第5遺跡 (No. 14)	[笠世 - 29]



その他の出土遺物



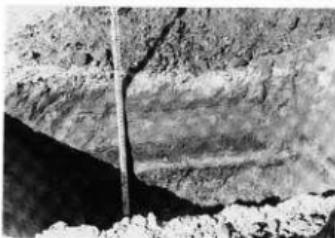
No.1 試掘坑(井之口字今川)



No.2 試掘坑(成島字川久保)



No.6 試掘坑(下河東字茶道)



No.3 試掘坑(成島字町東)



No.4 試掘坑(成島字中田)



No.5 試掘坑(成島字下河原)



No.9 試掘坑(下三条字竹之花)



No.9 試掘坑の調査風景



No.3 試掘坑の調査風景

山梨県中巨摩郡玉穂町

## 町内遺跡詳細分布調査報告書

印刷日 1995年3月20日

発行日 1995年3月31日

編集／発行 玉穂町教育委員会

山梨県中巨摩郡玉穂町下河東620

電話 0552-74-1120

印刷所 (株)有泉堂

